



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
精神医療センター

令和元年度

精神医療センター業務年報

令和2年11月

目 次

I 概 況

1 基 本 理 念	1
2 沿 革	1
3 組 織 ・ 機 構	5
4 職員配置状況	6
5 施 設	8
施設配置図	9
6 主な委員会・会議一覧	10
7 主な院内研修実績	11
8 主な活動実績	12

II 精神医療センター事務事業の状況

1 精神医療センター基本方針	21
2 経理の状況	
財務諸表	22
3 業務実績	
(1) 各種指標	25
4 患者の状況	
(1) 外来患者の状況	26
(2) 入退院患者の状況	28
(3) 救急医療の状況	34
5 業務の状況	
(1) 看 護	35
(2) 作業療法 (OT)	44
(3) デイ・ケア療法	46
(4) 検査業務	51
(5) 福祉医療相談科業務	56
(6) 訪問看護業務	62
(7) 地域医療連携業務	64
(8) 薬剤業務	67
(9) 医療教育	68
(10) 栄養管理業務	68
(11) 医療安全推進業務	71
(12) 保育業務	74

(注) 本年報の表は原則として令和2年3月31日をもって作成してあります。例外については、本文中に基準年月日を表示してあります。

1 基本理念

私たちは、こころの健康を支え、質の高い精神医療を提供します。

2 沿革

当センターは精神病院法に基づくわが国3番目の府県立精神病院として昭和4年3月から診療を開始した芹香院と、昭和38年4月、全国に先駆け、麻薬中毒患者専門医療施設として収容治療を開始し、その後、神経症、アルコール依存症、薬物中毒者の患者を対象に治療を行ってきたせりがや園を統合して、平成2年4月に神奈川県立精神医療センターとして改組した。（名称も芹香病院、せりがや病院に改称。）

平成26年12月両院を統合し、323床（許可病床）を有する新しい「神奈川県立精神医療センター」として開院した。

開設以来の主たる変遷は次のとおりである。

【芹 香 院】

昭和3年11月	本館及び病棟5棟 付属建物を含め延べ…3,606㎡の施設完成
4年3月	診療開始（150床）
35年7月	第1、第2病棟完成（作業療法棟…2,207.05㎡）
39年4月	地方公営企業法（企業会計方式）の一部適用
46年8月	院内保育施設新築
11月	C病棟、管理診療棟、サービス棟新築
48年1月	A病棟、B病棟、社会療法棟、喫茶売店棟、車庫棟新築
3月	温室及び看護婦宿舎新築
6月	作業療法棟改築
7月	事務局に医事課を新設
8月	事務局に栄養課を新設、医療局を部長制とし、作業療法科を新設、看護部に看護教育係を新設
50年7月	せりがや地区第一医療職員公舎完成
54年3月	A、B、C各病棟の2、3階に消防用スプリンクラー設備設置
10月	A3病棟を開棟
55年8月	事務局が総務局に、管理課が総務課に改称、総務局次長（総務課長兼務）新設
56年7月	保育施設改修
10月	芹香院作業療法用農場（27アール）整備工事完成
57年1月	身体障害者用便所、管理診療棟1箇所、A病棟1箇所完成
58年11月	緊急医療対策用保護室改修
60年9月	デイ・ケア施設改修
62年4月	医療局にデイ・ケア科を新設
	夜間、休日の緊急医療開始
12月	外来受付室、待合室改修
平成元年3月	保護室（6室）、静養室（16室）改修
2年1月	保護室（8室）改修

【せりがや園】

昭和38年 1 月	本館新設（サーモコン 2 階建）
3 月	厨房棟新築（コンクリート鉄骨平屋建）
4 月	診療開始（70床）
39年 4 月	地方公営企業法（企業会計方式）の一部適用
43年 7 月	本館増築工事等 病棟、管理部門の改修
52年 4 月	病床数（64床）変更

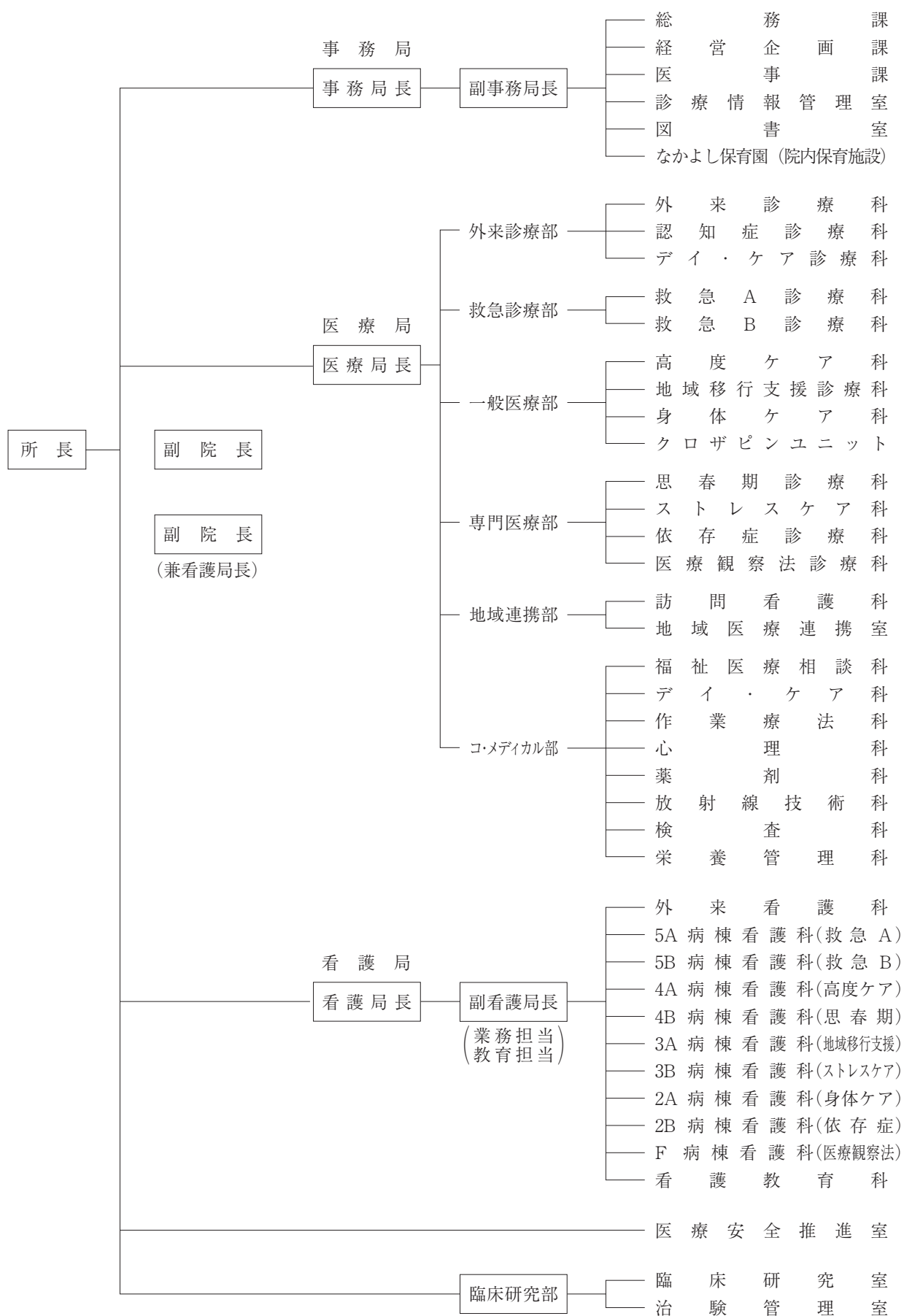
【精神医療センター】

平成 2 年 4 月	芹香院とせりがや園を、精神医療センターに組織改正、センター所長職の設置、芹香院を芹香病院に、せりがや園をせりがや病院に改称、精神医療センター総務局に総務課、経理課、医事課及び栄養課設置 せりがや病院の医療局に心理・相談科、看護部に外来看護係、看護教育係を新設
9 月	せりがや病院新築（80床）
3 年 4 月	芹香病院 A1…病棟を老人性痴呆専門治療病棟（44床）に改修 芹香病院 B3…病棟の一部を改築（結核合併症病棟16床、精神科病棟31床）
4 年 4 月	芹香病院 B2…病棟保護室（4室）改修
5 年 2 月	せりがや病院 基準看護結核・精神特2類承認
3 月	芹香病院 基準看護結核・精神特2類承認
6 年 3 月	看護婦共同宿舍、看護師宿舍、職員公舎一戸解体 芹香病院 C1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置
10 月	芹香病院、せりがや病院新看護体系……3：1……承認
7 年 3 月	芹香病院 B1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置 C 棟外壁塗装、屋上防水塗装工事完成
5 月	せりがや病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
8 年 3 月	芹香病院 A1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置 芹香病院 A2…病棟に感染症隔離室（2 室）設置 芹香病院 A3…病棟に救急用保護室（4 室）、静養室（3 室）設置
8 年 4 月	芹香病院病床数（497床）変更 芹香病院 精神科救急医療開始 選択メニュー給食の実施
10年12月	職員公舎 3 戸解体
12年 7 月	芹香病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
12 月	第 1 医療職員公舎解体
14年 4 月	芹香病院 精神科救急医療 24時間体制開始（8 床）
15年 4 月	芹香病院 精神科 救急病棟開設（B－1病棟 26床） 芹香病院 病床数（445床）変更
9 月	芹香病院 応急入院指定病院（1床）
10 月	芹香病院 精神科急性期治療病棟（B1）入院科1適用承認 芹香病院 紹介患者加算 5 実施
16年 4 月	芹香病院 精神科救急入院科（B1…病棟26床）適用承認

平成16年 4月	芹香病院 精神科救急入院施設管理加算（A1…病棟を除く）適用承認 芹香病院 医療保護入院等診療科適用承認 せりがや病院 医療保護入院等診療科適用承認 芹香病院 褥瘡患者管理加算適用承認
6月	芹香病院 療養環境加算（A1・B2…病棟）適用承認
9月	芹香病院 夜間勤務等看護加算（A1…病棟）
17年 4月	地方公営企業法全部適用 精神医療センターの組織再編成 看護部を看護局と改称、経理課及び医事課を医事経営課に統合、栄養課を栄養管理科に改称、各看護係を看護科と改称、各病院内に医療安全推進室を設置、芹香病院診療科内の医療相談室を地域医療相談室と改称
12月	芹香病院 日本医療機能評価機構認定病院となる せりがや病院 日本医療機能評価機構認定病院となる
18年 1月	芹香病院 診療録管理体制加算 せりがや病院 診療録管理体制加算
4月	芹香病院 15対1 精神病棟入院基本料（A1…病棟及びB1…病棟を除く） 芹香病院 老人性認知症疾患治療病棟入院料1（A1…病棟） 芹香病院 医療安全対策加算 芹香病院 臨床研修病院入院診療加算 芹香病院 栄養管理実施加算 せりがや病院 15対1 精神病棟入院基本料 せりがや病院 栄養管理実施加算
8月	芹香病院 精神科ショート・ケア「大規模なもの」
9月	芹香病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定 せりがや病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定
12月	芹香病院 特定病院認定
19年 5月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2適用承認
8月	せりがや病院 精神科作業療法適用承認
20年 3月	芹香病院 老人性認知症専門病棟（A1…病棟）閉床 芹香病院 生活訓練・短期静養病棟（C1…病棟）閉床
4月	芹香病院 ストレスケア病棟（A2…病棟）開床 芹香病院 精神科地域移行実施加算
8月	芹香病院 看護補助加算1
21年 2月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2（A2・B2…病棟）
4月	芹香病院 精神科救急入院料2（B1・B2…病棟） 芹香病院 通院対象者社会復帰連携体制強化加算
6月	せりがや病院 褥瘡患者管理加算
9月	芹香病院 病床数（308床）変更
22年 2月	芹香病院 医療観察法指定入院医療機関の指定（2床） 芹香病院 入院対象者入院医学管理料
4月	地方独立行政法人へ移行
5月	芹香病院 救急医療管理加算 せりがや病院 重度アルコール依存症管理加算

平成22年 6 月	芹香病院 精神科救急入院料 1 (B1、B2…病棟)
7 月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料 1 (A2…病棟)
12月	芹香病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 13対 1 精神科病棟入院基本料
23年 1 月	芹香病院 作業療法棟及び社会療法棟の撤去
9 月	芹香病院 医療観察法病棟の建設工事を開始
24年 2 月	芹香病院精神科一般病棟 (C3…病棟) 休床
4 月	芹香病院精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 芹香病院治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
11月	医療観察法病棟 (F 病棟) の開棟 (33床) 新精神医療センター本館の建設工事を開始
26年 3 月	せりがや病院 1 階病棟 休床
4 月	せりがや病院精神保健福祉士配置加算 芹香病院精神科急性期医師配置加算 (A2…病棟)
12月	精神医療センター本館開設、芹香病院・せりがや病院統合 (323床) 思春期病棟開設 既存棟除却工事を開始 コンピューター断層撮影 (16列以上64列未満のマルチスライス型の機器による場合) ニコチン依存症管理料
27年 1 月	児童・思春期精神科入院医療管理料 (4B 病棟) 強度行動障害入院医療管理加算 (4B 病棟)
11月	既存棟除却工事完了
28年 9 月	新院内保育施設建設工事を開始
29年 4 月	新院内保育施設建設工事完了
5 月	院内保育施設一般児童の受入開始
11月	「もの忘れ外来」を開設
30年 4 月	MRIの稼働開始 看護職員夜間配置加算 (5A、5B 病棟) 児童思春期精神科専門管理加算
31年 2 月	後発医薬品使用体制加算 4
令和元年 5 月	認知療法・認知行動療法
7 月	経頭蓋治療用磁気刺激装置による治療 (6 月より保険収載)
8 月	後発医薬品使用体制加算 3
10月	患者サポート体制充実加算
2 年 2 月	一般名処方加算 1 及び 2 (処方箋科)
4 月	神奈川県災害拠点精神科病院の指定

3 組織・機構（令和2年4月1日現在）



4 職員配置状況（令和2年4月1日現在）

所属 \ 職	事務職員	技術職員	技能職員	計	非常勤職員	再雇用職員	契約職員	任期付職員
所 長		1		1				
副 院 長		2		2				
事 務 局 長	1			1				
副 事 務 局 長	1			1				
総 務 課	5			5	4		3	
経 営 企 画 課	5			5	1		1	
医 事 課	5			5	2			
小 計	17	3		20	7		4	
医 療 局 長		1		1				
診 療 科		19		19	30		3	7
作 業 療 法 科		8		8				
デ イ ・ ケ ア 科	3	4		7	1			
心 理 科	6			6			2	
福祉医療相談科	14			14	4			
地域医療連携室	1	1		2		1		
訪 問 看 護 科		4		4				
検 査 科				0	3			
薬 剤 科		6		6	1			
栄 養 管 理 科		3	9	12	16	1	7	
放 射 線 技 術 科		1		1				
看 護 局 長		(1)		(1)				
副 看 護 局 長		2		2				
看 護 局		222	3	225	10	15	9	
医 療 安 全 推 進 室		1		1				
臨 床 研 究 室	1			1				
小 計	25	272	12	309	65	17	21	7
計	42	275	12	329	72	17	25	7

（注）（ ）は兼務

職種別内訳（令和2年4月1日現在）

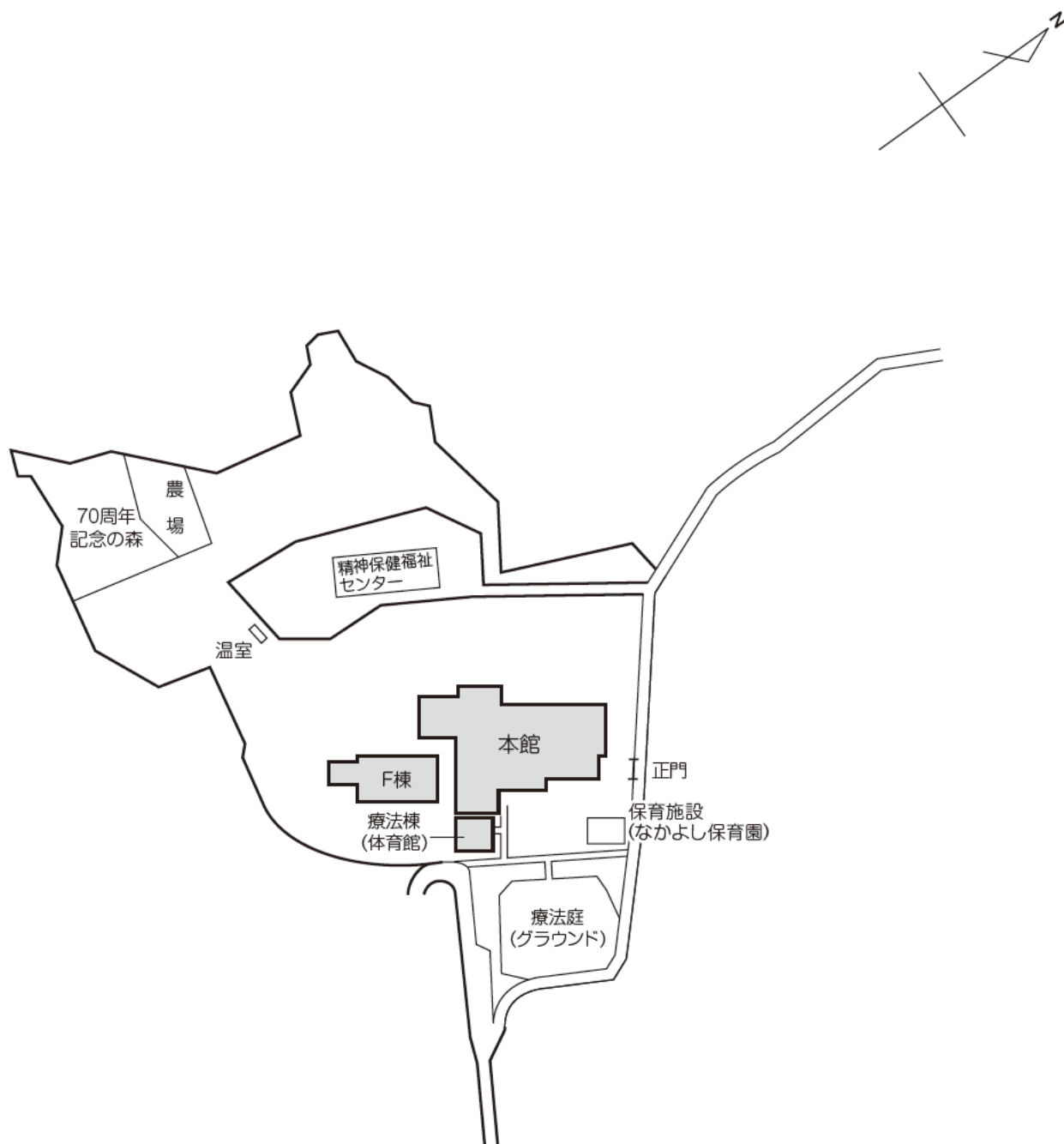
所 属 職 種		所 長	事 務 局	医 療 局	看 護 局	計
一 般 事 務 職			17			17
管 理 栄 養 士				3		3
調 理 職				9		9
医 師		1		21		22
福 祉 職	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー			16		16
	臨 床 心 理 士			9		9
作 業 療 法 士				11		11
薬 剤 師				6		6
診 療 放 射 線 技 師				1		1
看 護 職			1	6	225	232
病 棟 技 能 職					3	3
総 数		1	18	82	228	329

5 施 設

【神奈川県立精神医療センター】（令和2年4月1日現在）

土 地		45,376.78㎡
建 物		(延べ面積)
本 館	鉄筋コンクリート造 地上5階建	18,462.53㎡
療 法 棟	鉄骨造 平屋建	543.86㎡
営 繕 棟	軽量プレハブ造 平屋建	59.81㎡
ポ ン プ 室	コンクリートブロック造 平屋建	14.37㎡
医 療 観 察 法 病 棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建	2,998.75㎡
倉 庫	鉄筋コンクリート造 平屋建	21.00㎡
防 災 倉 庫	鉄筋コンクリート造 平屋建	43.21㎡
農 機 具 庫 (A)	鉄骨造 平屋建	1.75㎡
農 機 具 庫 (B)	鉄骨造 平屋建	1.75㎡
用 具 庫	鉄骨造 平屋建	1.26㎡
保 育 施 設	鉄骨造 平屋建	419.74㎡
計		22,568.03㎡

施設配置図



※なかよし保育園は平成 29 年 4 月に新築移転。

6 主な委員会・会議一覧（令和2年4月1日現在）

委員会・会議	目 的	所管課（科）	構成員数	開 催 日
管 理 者 会 議	センターの運営基本方針、事業計画及び予算等の重要事項の協議決定	総 務 課	8人	月2回（第1・第4月）
経 営 会 議	センターの経営改善の推進に必要な事項の検討	医 事 課	28人	月1回（第4火）
診 療 情 報 部 会	センターのカルテ、看護記録等の診療情報の管理に関する事項の検討	医 事 課	7人	月1回（第2火）
倫 理 委 員 会	センターで行う医療等に関し、倫理上の配慮が求められる事項についての検討	総 務 課	8人	随時
機 種 等 選 定 会 議	備品購入又は委託等に係わる機種選定及び入札参加者等の適正な選定	経 営 企 画 課	6人	随時
工 事 発 注 方 法 審 査 会 議	工事の発注方法等の審査の実施	経 営 企 画 課	6人	随時
教 育 研 修 会 議	医療人材の教育・研修及び評価並びに、成果発表会の企画・運営	看 護 局	18人	隔月
運 営 調 整 会 議	センターの運営基本方針、事業計画及び予算等の重要事項の協議決定	総 務 課	33人	月1回（第1火）
感 染 防 止 対 策 会 議	センターの院内感染防止及び衛生管理対策等の検討	医療安全推進室	21人	月1回（第4火）
医 療 事 故 防 止 対 策 会 議	センターの医療事故防止体制の整備・確立及び防止対策の企画・立案等	医療安全推進室	20人	月1回（第1火）
栄 養 ・ 給 食 会 議	センターの栄養管理・食事サービス業務の効率的な運営と向上	栄 養 管 理 科	24人	年4回
薬 事 会 議	センターの医薬品の適正な管理及び効率的な運用	薬 剤 科	8人	年4回
衛 生 委 員 会	センターの職員の安全と健康の確保及び快適な作業環境の形成	総 務 課	8人	月1回（第2月）
看 護 科 長 会 議	センターの看護管理に関する連絡調整及び看護組織の運営改善等の協議、看護職員の資質向上の検討	看 護 局	14人	月3回 （第1・第2・第4水）

7 主な院内研修実績

研修	担当	開催日	テーマ	講師	参加数
新採用・転入職員研修	総務課・看護局	4月1日～5日 (内5日間)	別紙参照	総務課・看護局	15
安全管理研修①	医療事故防止対策会議	6月～7月	病院の職員みんなで「医療安全」を考えてみよう	学研ナーシングサポート	416
感染防止研修①	感染防止対策会議	6月～7月	スタンダードプリコーション(標準予防策)と経路別予防策	学研ナーシングサポート	419
情報セキュリティ研修	教育研修会議	7月～8月	身につけておきたい医療現場の情報リテラシー ～情報漏洩はこうやって起きる～	学研ナーシングサポート	314
接遇研修	教育研修会議	7月～8月	医療者にとって本当に必要な接遇とは ～専門職業人としての基本的態度～	学研ナーシングサポート	
精神医療センター研究発表・業務改善報告会 兼職員表彰推薦演題選考会	教育研修会議	12月5日	口演 12演題 示説 7演題	県立病院QC選考会	73
医療安全フォーラム ・感染防止研修② ・医療安全研修② ・医薬品安全管理研修 ・行動制限評価検討会議 ・医療ガス	医療事故防止対策会議 感染防止対策会議 教育研修会議 他	1月29日～1月31日			450
CVPPP研修会	行動制限評価検討会議	11月6日	行動制限に関するルール 包括的暴力防止プログラム	救急A診療科 医師 茨木丈博 看護師 鹿野哲夫	59
衛生委員会研修	衛生委員会	8月20日	姿勢チェックで肩こり・腰痛予防	フィットネス インストラクター 藤田麻里	21
		2月28日	コロナウイルス感染防止対策のため延期	保健師 畠山先生	
委託職員研修		2月18日 19日	コロナウイルス感染防止対策のため延期	石田正人	
所長講演	総務課	7月29日	精神障害と犯罪 —理解を深めるために—	田口所長	111

8 主な活動実績

○講師派遣等実績

氏 名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
田口 寿子	精神障害と犯罪—理解を深めるために—	神奈川県立精神医療センター院内講演会
田口 寿子	医療観察法の入院医療—その特徴とやりがいについて	北海道大学精神医学教室
田口 寿子	産後の女性による嬰兒殺・新生児殺—近年の動向と防止対策について	横浜市精神科医会
田口 寿子	再入院事例から見える医療観察法医療の課題	医療観察法指定通院医療機関精神保健福祉士協議会
小澤 篤嗣 福田 伸一 小倉 克行 加藤 充弘 瀬底 正有 岡田 晋 坂井美智代 石川 慶子	2019年度司法精神医療等人材養成研修 「共通項目・心神喪失者等医療観察法に基づく医療および実務」 グループワーク	独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター「2019年度指定医療機関従事者研修会」
小林 桜児	薬物依存症について～依存症を予防するために大切なこと～	神奈川県立川崎工科高等学校「学校保健関係者に対する講演」
小林 桜児	職員ならびに周辺地域の医療福祉関係者を対象としたアディクション研修会における講義・ディスカッション	国立病院機構さいがた医療センター「アディクション研修会に係る講演」
小林 桜児	依存症治療・信頼障害仮説	国立病院機構さいがた医療センター「第1回さいがた医療センターアディクション研修会」
小林 桜児	依存症を作らないための不眠症治療の原則	信州不眠症セミナー
小林 桜児	アルコール依存症の診断と治療の実際	2019年度第1回神奈川県精神科薬物療法専門薬剤師セミナー
小林 桜児	地区別一般酒害相談研修会	一般社団法人神奈川県断酒連合会 大和つくし断酒会
小林 桜児	「生きづらさ」からの回復	大和つくし断酒会「一般酒害相談研修会」
小林 桜児	依存症概論	神奈川県立精神医療センター「令和元年度依存症セミナー」
小林 桜児	平成31年度乳幼児虐待予防事業（スーパーバイズ）の実施について	神奈川県川崎市宮前区役所地域まもり支援センター「乳幼児虐待予防事例のケースワークスキルに関する研修、事例検討」
小林 桜児	若者の生きづらさについて考える～人に頼れない病と自傷行為・アディクション	大阪府こころの健康総合センター
小林 桜児	若者の生きづらさについて考える	大阪府こころの健康総合センター「令和元年度自殺対策研修」
小林 桜児	若者の生きづらさとアディクション	福岡県精神保健福祉センター「令和元年度精神保健福祉夏期講座」
小林 桜児	依存症とその家族～概論～	神奈川県精神保健福祉協会「児童・生徒理解のためのセミナー」
小林 桜児	学校の先生に知っておいてほしい依存症の理解の仕方と対応	学校法人東星学園
小林 桜児	人を信じられない病～信頼障害としての依存症と薬物乱用防止教育～	京都府教育庁指導部保健体育課「薬物乱用防止教室講習会」
小林 桜児	人を信じられない病の先に	NPO法人のびの会「2019年度パーソナリティ障害講演会」

氏 名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
小林 桜児	アルコール依存症をめぐる最近の話題	神奈川県断酒連合会「酒害相談員研修会」
小林 桜児	学校の先生に知ってほしい依存症の理解の仕方と対応	東星学園「校内研修」
小林 桜児	子どものこころの危機を知る～自傷、ネット依存、摂食障害等の背景と対応～	大阪府豊中市保健所保健予防課「学校メンタルヘルス・リテラシー向上講演会」
小林 桜児	アルコール依存症からの回復・戦略・介入の中でのリハビリテーションの結びつきを考える	日本新薬株式会社「日本精神障害者リハビリテーション学会 第27回大阪大会ランチョンセミナー2」
小林 桜児	2019年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会シンポジウム11・シンポジスト	第54回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 第41回日本アルコール関連問題学会
小林 桜児	中毒性精神病	横浜市立大学医学部「令和元年度精神医学講義」
小林 桜児	人を信じられない病～信頼障害としての依存症と薬物乱用防止教育～	京都府教育委員会「令和元年度薬物乱用防止教室講演会」
小林 桜児	薬物依存症とは	文科省委託令和元年度依存症予防教育推進事業「依存症予防山形教室」
小林 桜児	どうしてやめられないの？なぜ助けをもとめないの？～アルコール依存症の不思議～	都立南多摩保健所「精神保健福祉講演会」
小林 桜児	アルコール・薬物・ギャンブル依存症の理解と対応	神奈川県相模原市精神保健福祉センター「精神医学基礎研修」
小林 桜児	精神医学基礎研修3「アディクション」	神奈川県相模原市精神保健福祉センター「相模原市で相談支援業務に従事する職員及び関係機関の職員を対象にした研修」
小林 桜児	児童・生徒に係る自傷行為対応力向上研修	神奈川県相模原市精神保健福祉センター
小林 桜児	薬物依存からの回復	法務省矯正研修所「改善指導科研修」
小林 桜児	令和元年度専門研修課程改善指導科第4回改善指導プログラム指導職員（特別編）研修	法務省矯正研修所「薬物依存離脱指導担当者向け研修」
小林 桜児	物質依存援助一総論	都立多摩総合精神保健福祉センター「令和元年度薬物・アルコール等問題研修」
小林 桜児	令和元年度「依存症問題研修①（物質依存概論）」	東京都立多摩総合精神保健福祉センター「精神保健福祉に携わる関係職員を対象とした研修」
小林 桜児	若者の生きづらさと自傷行為	横浜市こころの健康相談センター「自殺対策出前講座1」
小林 桜児	若者の生きづらさと自傷行為	横浜市こころの健康相談センター「自殺対策出前講座2」
小林 桜児	アルコール依存症からの回復・戦略・介入の中でのリハビリテーションの結びつきを考える	日本精神障害者リハビリテーション学会「第27回大阪大会ランチョンセミナー」
小林 桜児	依存症と自殺のリスク～その理解と対応～	香川県精神保健福祉センター「自殺予防のための対応力向上研修会」
小林 桜児	メンタルヘルスとアディクションの基礎知識	神奈川県精神保健福祉センター「令和元年度酒害予防講演会」
小林 桜児	依存症の当事者に対する家族の対応の仕方	特定非営利活動法人横浜市精神障害者家族連合会「精神保健の啓発活動講演会」
小林 桜児	薬物依存症の現状と課題について	SST普及協会第24回学術集会群馬大会研修会「依存症者回復支援のSST」
小林 桜児	依存症者回復支援のSST	SST普及協会第24回学術集会群馬大会における研修会

氏 名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
小林 桜児	成長を目指すアディクション治療～信頼感・感情調節・愛着関係の視点から～	埼玉県立精神医療センター「令和元年度埼玉県依存症治療拠点機関主催研修会」
小林 桜児	パーソナリティ障がいの方への対応について	調布市こころの健康支援センター「令和元年度調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会第3回連絡会」
小林 桜児	依存症臨床の基礎～アルコール・薬物・ギャンブル～	大阪府立大阪精神医療センター「依存症医療研修」
小林 桜児	依存症治療においてなぜ感情が大切なのか？	神奈川県立精神医療センター「令和元年度SCOPセミナー」
小林 桜児	依存症の理解とこれからの依存症予防教育	大阪府こころの健康総合センター「令和元年度第2回依存症相談対応・実践研修」
小林 桜児	アディクションと信頼障害	国立病院機構久里浜医療センター「第3回関東甲信越アルコール関連問題学会市民公開講座」
小林 桜児	若者の生きづらさと自傷行為	相模原市「児童・生徒に係る自傷行為対応力向上研修」
小林 桜児	自殺・自傷・過量服薬	国立病院機構久里浜医療センター「令和元年度アルコール依存症回復施設職員研修」
小林 桜児	人はなぜ止められなくなるのか？～依存症の病理と回復過程を理解する～	ソニー・インタラクティブエンターテインメント「社内講演会」
小林 桜児	薬物依存の治療と回復	法務省東京矯正管区「改善指導等における処遇担当職員と教育担当職員の連携強化に係る検討会」
新宅 賢一	令和元年度かながわDPAT研修	神奈川県立精神保健福祉センター
安田 新	認知症治療の最近の動向、もの忘れ外来を通して地域での支援に期待すること	横浜市港南区福祉保健センター「令和元年度港南区キャラバン・メイト連絡会」
安田 新 一瀬 絹	認知症の方を医療に繋ぐには	戸塚区11地区包括支援センター主任ケアマネジャー連絡会
磯崎仁太郎	学校でできる、パーソナリティ障害の生徒との対と関わり方について	神奈川県立氷取沢高校「県立学校保健会横浜南部地区支部研修会」
磯崎仁太郎	思春期のからだところ～起立性調節障害、摂食障害へのかかわりと受診のタイミング～	神奈川県小田原市保健福祉事務所「令和元年度思春期保健研修会」
磯崎仁太郎	社内研修会	大塚製薬株式会社横浜支店
森脇 久視	講演Ⅰ「当院における統合失調症薬物療法の現状」	大日本住友製薬株式会社「ロナセンテブ発売記念講演会 in 横浜」
森脇 久視	精神科救急と当センターの役割	神奈川県立精神医療センター「令和元年度関係機関向け病棟見学会」
森脇 久視	「神奈川県精神科救急システムの当院における運用実態—医療の質の観点から—」	大日本住友ライブ配信講演会 in 神奈川
森脇 久視	講演Ⅰ「当院における精神科救急医療の現状—医療の質の観点から—」	大塚製薬学術講演会「精神科救急医療を考える」
福生 泰久	「令和元年山形沖を震源とする地震」対応	厚生労働省委託事業DPAT本部
福生 泰久	令和元年度DPAT統括者・事務担当者研修・研修ファシリテーター	厚生労働省委託事業DPAT本部
福生 泰久	2019年度第8回日本精神科医学会学術大会シンポジスト	厚生労働省委託事業DPAT本部
福生 泰久	「令和元年度DPAT先遣隊研修（第1回）」研修ファシリテーター	厚生労働省委託事業DPAT本部

氏 名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
福生 泰久	「令和元年度DPAT統括者・先遣隊技能維持研修」研修ファシリテーター	厚生労働省委託事業DPAT本部
福生 泰久	「日本における事業・活動—急性期対応と関連する研究」の発表	厚生労働省委託事業DPAT本部
福生 泰久	SST普及協会第24回学術集會群馬大会における研修会「被災当事者支援のSST	SST普及協会第24回学術集會群馬大会運営事務局
福生 泰久	災害医療概論とDPATの活動の現状	山形県健康福祉部障がい福祉課「令和元年度山形DPAT研修会」
福生 泰久	DPAT及び災害医療概論に関する講義	香川県健康福祉部障害福祉課「令和元年度香川DPAT研修会」
福生 泰久	災害時の精神医療活動	高知県地域福祉部障害保健支援課「令和元年度高知県DPAT研修」
福生 泰久	三重県でのDPAT活動の充実・強化を図ることなどを目的とした研修会	三重県こころの健康センター技術指導課「令和元年度三重DPAT研修」
西村 康平	国立市「第2次健康増進計画」において、「休養とこころの健康」の自殺予防対策と位置付けたゲートキーパー要請研修	東京都国立市健康福祉部健康増進課
西村 康平	養育困難児の関わり・保護者対応について	東京都国立市立なかよし保育園
西村 康平	薬物乱用防止に関する講演	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校
西村 康平	藤沢市教員向け薬物講演	藤沢市教育委員会
西村 康平	薬物乱用防止教室推進講習会	大阪府教育庁
山本 恭平	発達障害と強迫性障害	横浜市青少年相談センター「令和元年度若者相談支援スキルアップ研修」
嘉山 一壽	精神科看護における管理者研修「応用編」	一般社団法人日本精神科看護協会神奈川県支部
馬場真佐美	臨床栄養学講演および実習	東京家政大学 非常勤講師
大曾根しのぶ	薬物依存者への対応…センターにおける薬物相談やSMARPPの実施状況、家族教室の紹介、薬物依存者との関わりにおいて配慮する点など	横浜保護観察所
小林 真美	第5回「発達障害（ADHD）」	精神薬学会 精神科疾患患者の特徴と診断 最新の薬物治療及び患者コミュニケーションに関する研修（Webセミナー）
小林 真美	講義「精神疾患の服薬指導」	星薬科大学 非常勤講師
小林 真美	令和元年度第10回さがみかい「発達障害と服薬について」	相模原市南障害者地域活動支援センター
小林 真美	発達障害（ADHD）	一般社団法人日本精神薬学会「精神科疾患患者の特徴と診断、最新の薬物治療及び患者のコミュニケーションに関する研修（WEBセミナー）」
渡會 繭子	精神機能作業療法学	東京工科大学
村田 大輔	コグニサイズって何だ？	まちぐるみ健康づくり教室
村田 大輔	福祉体験学習（認知症サポーター養成講座）	横浜市立芹が谷小学校
村田 大輔	福祉教育	横浜市立南高等学校附属中学校
中里 容子	2019年 依存症セミナー	神奈川県立精神医療センター
瀬底 正有 岡田 晋	令和元年度 指定通院医療機関従事者研修会 グループワーク	独立行政法人国立病院機構本部
樋口 美佳	管理コース I	神奈川県立病院機構

氏 名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
樋口 美佳 稲本ゆかり	管理コースⅠ	神奈川県立病院機構
曾我 孝子	管理コースⅡ	神奈川県立病院機構
石田 正人	精神に障がいをもつ人の理解 精神障がいの特徴と治療	東京都立荏原看護専門学校
石田 正人	DPATの活動から精神科の災害看護を学ぶ	日本精神科看護協会神奈川県支部
石田 正人	身体拘束のないケア	神奈川県立さがみ緑風園
石田 正人	大規模地震時医療活動訓練（宮崎）	厚生労働省委託事業DPAT本部
石田 正人	DPAT研修（神奈川県、山梨県、東京都他）	厚生労働省委託事業DPAT本部
石田 正人	DPATの活動から精神科の災害看護を学ぶ	一般社団法人日本精神科看護協会
石田 正人	統合失調症の理解と支援	かながわ福祉サービス振興会
石田 正人	～困難事例に挑む～高齢者の精神疾患の理解と対応	かながわ福祉サービス振興会
石田 正人	2019年度精神科訪問看護基礎療養費算定要件研修	神奈川県看護協会
石田 正人	身体拘束のないケア	神奈川県立さがみ緑風園
石田 正人	支援者としての関わり方～関わり方の基本～	神奈川県立中井やまゆり園
石田 正人	支援者としての関わり方～関わり方の基本 実践編～	神奈川県立中井やまゆり園
白石美由紀	専門コースⅡ	神奈川県立病院機構
白石美由紀	精神疾患への理解を深める学習会	横浜市瀬谷区医師会訪問看護ステーション
白石美由紀	精神科医におけるコミュニケーションスキルを身につける	一般社団法人日本精神科看護協会
白石美由紀	精神科看護学Ⅱ 12時間	横浜市医師会聖灯看護専門学校
白石美由紀	専門コースⅡ	神奈川県立病院機構
白石美由紀	精神疾患への理解を深める学習会	横浜市瀬谷区医師会訪問看護ステーション
安藤 馨	精神看護学Ⅱ 12時間	横浜市医師会聖灯看護専門学校 第一看護学科
安藤 馨	パーソナリティ障害に関する家族相談業務	特定非営利活動法人のびの会
安藤 馨	女性保護施設利用者の自立支援の一環としたSSTリーダー	神奈川県民生福祉協会
安藤 馨	就労している精神障がい者対象の就労SST	横浜メンタルサービスネットワーク
安藤 馨	高次脳機能障害の方への対応のコツを学ぶ～演習を通して～	東京都心身障害者福祉センター
安藤 馨	精神科看護学Ⅱ 12時間	横浜市医師会聖灯看護専門学校
安藤 馨	パーソナリティ障害当事者、家族、関係者を対象とする事業	特定非営利活動法人のびの会
大場なつき	看護研究発表会	横浜中央病院付属看護専門学校
井口真理子	専門コースⅠ	神奈川県立病院機構
津田 新菜	認知症予防研修	井土ヶ谷区地区社会福祉協議会
野崎 香介	精神看護学総論 4時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第二看護学科
大野 由里	精神看護学総論 2時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第一看護学科
稲本ゆかり	管理コースⅠ	神奈川県立病院機構
白石美由紀	精神看護学Ⅱ 12時間	横浜市医師会聖灯看護専門学校 第一看護学科
白石美由紀	精神科におけるコミュニケーションスキルを身につける	日本精神科看護協会神奈川県支部

氏 名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
井上 美紀	精神看護学Ⅰ 4時間	神奈川県立よこはま看護専門学校
佐藤 泰幸	こころの健康出前講座（横須賀市立長沢中学校）	一般社団法人日本精神科看護協会神奈川県支部
佐藤 泰幸	小規模病院に勤務する看護職員研修	神奈川県看護協会
佐藤 泰幸	思春期のこころの病気の理解とその行動への対応	学校法人大谷学園秀英高等学校
藤谷 健太	精神看護方法論Ⅰ 8時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第一看護学科
中谷 将	身体拘束の看護	一般社団法人日本精神科看護協会神奈川県支部
中野 啓太	精神看護学総論 4時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第二看護学科
斉藤 充史	精神看護方法論Ⅰ 12時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第二看護学科
鹿野 哲夫	精神看護学Ⅲ 4時間	神奈川県立よこはま看護専門学校
鹿野 哲夫	令和元年度 精神科医療体制確保研修 （8月／1月）	独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター
鈴木 哲也	精神看護方法論Ⅱ 4時間	横浜中央病院付属看護専門学校
早乙女拓哉	精神看護方法論Ⅱ 6時間	横浜中央病院付属看護専門学校
足立 和也	精神看護方法論Ⅱ 8時間	横浜中央病院付属看護専門学校
和田 拡子	看護実習指導者講演会 看護論 再構成演習	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター
横井 信人	精神看護学Ⅱ 演習	神奈川県立よこはま看護専門学校
本田 幸一	精神看護方法論Ⅰ 8時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第一看護学科
山口二三子	第18回日本アディクション看護学会シンポジスト	日本アディクション看護学会学術集会
山口二三子	依存症専門病院の新たな看護の取り組み	第18回日本アディクション看護学会学術集会
小駒麻衣子	精神看護方法論Ⅰ 6時間	神奈川県立衛生看護専門学校 第二看護学科

○執筆

氏 名	題 名	掲 載 先
田口 寿子	嬰兒殺－精神科医の立場から	福村出版「虐待『嬰兒殺』事例と歴史的考察から考える子ども虐待死」2019年
田口 寿子	再鑑定により検察官が公訴を取り消した事例：コメント（精神科医）	現代人文社「ケース研究責任能力が問題となった裁判員裁判」2019年
田口 寿子	控訴審において新たに行った当事者鑑定に依拠し、第一審とは異なる精神障害が認定された事例：コメント（精神科医）	現代人文社「ケース研究責任能力が問題となった裁判員裁判」2019年
田口 寿子	司法精神療法のケースフォーミュレーション	「精神療法」45巻増刊号
小林 桜児	ギャンブル依存症の『いま』を知る	中央法規出版「ギャンブル依存症－当事者から学ぶその真実－」2019年
小林 桜児 板橋 登子 西村 康平 (訳)	愛着障害としてのアディクション (フィリップ・J・フローレス著)	日本評論社 2019年
小林 桜児	物質関連障害および嗜癖性障害と小児期逆境体験	「精神医学」61巻10号
小林 桜児	アディクションと愛着障害	「そだちの科学」2019年10月号
伊津野拓司 中村 元昭	反復経頭蓋磁気刺激療法の実際と留意事項	「精神神経学雑誌」121巻5号
西村 康平	依存症治療とハームリダクションについて	「治療」102巻3号
福田 真弓	くすりの広場：精神疾患をもつ患者さんへの薬剤指導	「神奈川県病院薬剤師会雑誌」52巻1号
石田 正人	「白黒判断」「感情爆発」「衝動的」境界性パーソナリティ障害を持つ人が起こす困ったケースへの対処方法	「ナースマネジャー」21巻4号
石田 正人	地域移行支援に向けた行政との連携	「精神科看護」46巻10号
石田 正人	最期のお別れ・最期からの学び（episode.2）最期に教えられたこと	「精神科看護」47巻3号
石田 正人	災害派遣精神医療チーム（DPAT）の活動. 看護の立場から	「精神科」36巻3号
熊谷 啓子	双極性障害の患者に初めて個別心理教育を行う看護師の困難と必要とする支援	「日本精神科看護学術集会誌」61巻2号

○学会発表

氏 名	論文（講演）名	学会等の名称	日 程
田口 寿子	裁判員裁判の影響を検証する—精神鑑定の精神医学的価値を損なわないために	第115回日本精神神経学会学術総会（シンポジウム「刑事責任能力鑑定の方法—裁判員裁判における私の実践」）	2019年 6 月
田口 寿子	統合失調症初回エピソード時に放火事件を起こした事例	第115回日本精神神経学会学術総会（ワークショップ「統合失調症の精神鑑定」）	2019年 6 月
田口 寿子	医療観察制度における「入口」・「出口」問題	第52回全国自治体病院協議会精神科特別部会総会・研修会（医師部会シンポジウム「司法精神医学～医療観察、そして措置入院、入口の問題を巡って」）	2019年 8 月
田口 寿子	医療観察法による鑑定—その特徴と実務における留意点—	日本精神神経学会（第12回司法精神医学研修会）	2019年 9 月
田口 寿子	母親による嬰兒殺・新生児殺—現状と防止対策—	第16回日本周産期メンタルヘルス学会（シンポジウム「妊産婦の支援から、乳幼児・児童支援へ—虐待死、養育不全を防ぐために—」）	2019年10月
田口 寿子	発達障害の精神鑑定	日本司法精神医学会（第11回刑事精神鑑定ワークショップ）	2019年11月
田口 寿子	医療観察法による鑑定—その特徴と実務における留意点—	日本精神神経学会（第13回司法精神医学研修会）	2020年 1 月
小林 桜児	物質使用障害患者821例における自傷・自殺企図—生育歴上のリスク要因について—	第115回日本精神神経学会学術総会	2019年 6 月
小林 桜児	ギャンブル障害患者の男女差：生育歴上の特徴	第115回日本精神神経学会学術総会	2019年 6 月
小林 桜児	自己責任という名のスティグマを克服するために～依存症の発症と回復過程を検証する～	令和元年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会・シンポジウム11	2019年10月
森脇 久視	精神科入院患者における自殺関連行動の特徴と治療アウトカム—医療の質の観点から（筆頭演者）	第115回日本精神神経学会学術総会	2019年 6 月
森脇 久視	当院思春期病棟における自殺暴力関連事象について（筆頭演者）	第116回日本精神神経学会学術総会	2019年 7 月
森脇 久視	当院における65歳以上の措置入院患者の動向—BADO(患者基本記録)を用いた調査（共同演者）	第27回日本精神科救急学会学術総会	2019年10月
森脇 久視	F2群を対象とした当院の薬物療法についての現状評価—医療の質の観点から（共同演者）	第58回全国自治体病院学会	2019年10月
森脇 久視	致死的な異食、拒食、粗暴行為が持続し、2病院が連携して治療を継続した症例（共同演者）	第60回日本児童青年精神医学会総会	2019年12月
森脇 久視	被虐待歴のある重度行為障害症例に対する成人精神科入院治療② 心理療法過程からみる、信頼感と現実検討能力の回復（共同演者）	第60回日本児童青年精神医学会総会	2019年12月
森脇 久視	5年以上にわたる難治性うつ病エピソードにmECTが奏功した1例（共同演者）	第171回神奈川精神医学会例会	2020年 2 月
茨木 丈博	当院における非精神病圏の措置入院者の特徴	第27回日本精神科救急学会学術総会	2019年10月
面川 育	当院における65歳以上の措置入院患者の動向—BADO(患者基本記録)を用いた調査（筆頭演者）	第27回日本精神科救急学会学術総会	2019年10月
西村 康平	依存症専門外来における若年向精神薬使用障害患者の臨床的特徴	第115回日本精神神経学会学術総会	2019年 6 月
西村 康平	依存症専門外来・病棟で自傷としての瀉血をおこなう8症例の臨床的特徴	第115回日本精神神経学会学術総会	2019年 6 月
西村 康平	セクシャルマイノリティとアディクション—二重のスティグマへの援助—	令和元年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会・分科会 3	2019年10月

氏 名	論文（講演）名	学会等の名称	日 程
西村 康平	依存症専門外来でゲイであることを自らカミングアウトしたHIV感染症を有する物質使用障害患者の臨床的特徴	第33回日本エイズ学会学術集会・総会	2019年11月
小林 真美	一般演題「F2群を対象とした当院の薬物療法について現状評価－医療の質の観点から	第58回全国自治体病院学会	2019年10月
小林 真美	一般演題共同発表者「神奈川県立病院機構 薬剤師レジデント制度の取り組みとその評価」	第58回全国自治体病院学会	2019年10月
小林 真美	一般演題「薬物療法を受けている精神疾患患者の身体状態に関する危険因子の予測」	第65回神奈川県公衆衛生学会	2019年11月
中里 容子	依存症専門外来における感情焦点型プログラムSCOP(1)改訂版SCOPの実践報告	第41回日本アルコール関連問題学会	2019年10月
中里 容子	依存症専門外来における感情焦点型プログラムSCOP(2)症例からの考察	第41回日本アルコール関連問題学会	2019年10月
中里 容子	依存症専門外来における感情焦点型プログラムSCOP(3)表出された感情と心理尺度情の変化との関連	第41回日本アルコール関連問題学会	2019年10月
中里 容子	被虐待歴のある重度行為障害症例に対する成人精神科治療② 心理療法過程からみる、信頼感と現実認識能力の回復	第60回日本児童青年精神医学会総会	2019年12月
瀬底 正有	医療観察法におけるクライシス・プランの有効活用について	第15回日本司法精神医学会大会	2019年 6 月
八巻 倫世	薬物乱用防止教室を担当した看護師の経験～依存症看護師のインタビューからみえた教室と依存症看護の関係性～	第18回日本アディクション看護学会学術集会	2019年 6 月
堀内恵美子他	依存症外来看護科における「電話相談対応」の実態	アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会	2019年10月
		第30回日本アルコール看護研究会	2020年 2 月
小島 亮子	依存症専門外来における感情焦点型プログラムSCOP(2)症例からの考察	アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会	2019年10月
安藤 馨	書くこと”での気づきから始まるプロセスレコードの学習効果～精神看護学実習におけるプロセスレコードに関する実態調査からの示唆～	第50回日本看護学会－看護教育－	2019年 8 月
斉藤 充史	看護学生に心理的効果をもたらすウェルカムボードのメッセージ～学生が認識したメッセージの内容分析から示唆されたこと～	第50回日本看護学会－看護教育－	2019年 8 月
大場なつき 白石美由紀	精神科看護師の長期入院患者への退院支援に関する認識～インタビュー結果から今後の退院支援について考える～	第50回日本看護学会－精神看護－	2019年 8 月
足立 和也	被虐待歴のある重度行為障害症例に対する成人精神科入院治療① “見棄てない” メッセージであったと考える常時観察アプローチ	第60回日本児童青年精神医学会総会	2019年12月
大澤 佳奈	逸脱行為や自傷行為を繰り返す長期入院患者のニーズに着目した行動制限最小化の取り組み～健康的側面に着目する大切さ～	日本精神科看護協会神奈川県支部令和元年度看護研究発表会	2019年10月
飯島 夏子	服薬中断を繰り返す患者のアドヒアランス向上を意識した関わり～退院への思いを支えた服薬自己管理の援助～	日本精神科看護協会神奈川県支部令和元年度看護研究発表会	2019年10月
曾我 孝子	看護局内会議を効果的・効率的に進め、会議時間を短縮する取り組み	第58回全国自治体病院学会	2019年10月

1 精神医療センター基本方針

1 神奈川県精神科中核病院として、高度な医療を提供します。

- 精神科救急医療システムの基幹病院として充実した救急医療を提供し、地域の医療機関と連携します。
- 依存症、ストレスケア、思春期、医療観察法の4つの分野で専門的な医療を提供します。
- 先進的な医療に関する臨床研究や、神奈川県の医療の将来を担う人材育成に取り組みます。

2 患者さんの思いを大切に、患者中心の医療を目指します。

- 患者さん参加のもとで治療計画を考え、多職種チームで支援します。
- インフォームド・コンセントを徹底し、患者さんの意思決定を尊重します。

3 みんなのちからで、安全な医療に取り組みます。

- 積極的な情報公開に努め、透明性の高い安全な医療を提供します。
- 患者さんやご家族とともに、安心して医療を受けられる療養環境を築きます。

4 地域との連携を深め、患者さんの社会復帰を支援します。

- 必要な入院をスムーズに受け入れるとともに、早期退院を目指して計画的な援助を行います。
- 関係機関との連携を密にし、在宅の患者さんの地域生活を支援します。
- 関係機関と連携し、地域における精神保健活動に協力します。

5 県立病院として健全な経営を目指します。

- 効率的で効果的な経営のあり方を追求し、自立した病院経営に努力します。

2 経理の状況

(1) 財務諸表

(ア) 貸 借 対 照 表

(令和2年3月31日)

【精神医療センター】

(単位：円)

科 目	金 額			
資産の部				
Ⅰ 固定資産				
1 有形固定資産				
土地		5,115,463,000		
建物	7,078,533,098			
減価償却累計額	△ 1,767,030,282	5,311,502,816		
構築物	316,980,800			
減価償却累計額	△ 109,762,550	207,218,250		
器械備品	885,054,466			
減価償却累計額	△ 563,305,276	321,749,190		
車両	6,724,507			
減価償却累計額	△ 3,399,201	3,325,306		
有形固定資産合計		10,959,258,562		
2 無形固定資産				
ソフトウェア		7,718,364		
電話加入権		25,000		
無形固定資産合計		7,743,364		
3 投資その他の資産				
長期前払消費税等		251,621,335		
破産更生債権等	7,152,931			
貸倒引当金	△ 7,152,931	0		
その他		962,000		
投資その他の資産合計		252,583,335		
固 定 資 産 合 計			11,219,585,261	
Ⅱ 流動資産				
現金及び預金		14,695,279		
医業未収金	549,188,002			
貸倒引当金	△ 3,748,139	545,439,863		
未収金		1,407,430		
たな卸資産		30,360,831		
前払費用		700,342		
その他		2,850,120		
流動資産合計			595,453,865	
資 産 合 計				11,815,039,126

(単位：円)

科 目	金 額			
負債の部				
Ⅰ 固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費負担金	331,103,225			
資産見返補助金等	1,171,612,443			
資産見返寄附金	4,630,761			
資産見返物品受贈額	6,030,136			
建設仮勘定見返運営費負担金	13,023,149	1,526,399,714		
長期借入金		4,754,498,516		
引当金				
退職給付引当金	2,227,996,611	2,227,996,611		
リース債務		6,705,000		
固 定 負 債 合 計			8,515,599,841	
Ⅱ 流動負債				
寄附金債務		642,490		
一年以内返済予定長期借入金		228,031,673		
未払金		77,479,450		
一年以内支払予定リース債務		2,868,000		
未払費用		60,561,441		
預り金		13,238,207		
引当金				
賞与引当金	235,746,757	235,746,757		
流 動 負 債 合 計			618,568,018	
負 債 合 計				9,134,167,859
純資産の部				
Ⅰ 資本金				
設立団体出資金		3,265,316,204		
資 本 金 合 計			3,265,316,204	
Ⅱ 資本剰余金				
資本剰余金		329,408,000		
資 本 剰 余 金 合 計			329,408,000	
Ⅲ 繰越欠損金				
当期末処理損失		△ 913,852,937		
(うち当期総利益)		(52,325,618)		
繰 越 欠 損 金 合 計			△ 913,852,937	
純 資 産 合 計				2,680,871,267
負 債 純 資 産 合 計				11,815,039,126

(イ) 損 益 計 算 書
(平成31年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月31日)

【構精神医療センター】

(単位：円)

科 目	金 額		
営 業 収 益			
医業収益			
入院収益	2,693,417,175		
外来収益	441,776,565		
その他医業収益	70,379,218		
保険等査定減	△ 2,320,536	3,203,252,422	
運営費負担金収益		1,743,823,000	
補助金等収益		2,772,984	
資産見返運営費負担金戻入		22,225,056	
資産見返補助金等戻入		72,224,283	
資産見返寄附金戻入		118,800	
資産見返物品受贈額戻入		363,780	
営 業 収 益 合 計			5,044,780,325
営 業 費 用			
医業費用			
給与費	3,571,843,845		
材料費	272,801,583		
減価償却費	467,767,313		
経費	561,908,295		
研究研修費	7,142,796	4,881,463,832	
控除対象外消費税等		79,517,122	
資産に係る控除対象外消費税等償却		19,255,702	
営 業 費 用 合 計			4,980,236,656
営 業 利 益			64,543,669
営 業 外 収 益			
運営費負担金収益		33,976,000	
財務収益		120	
雑益		24,563,933	
営 業 外 収 益 合 計			58,540,053
営 業 外 費 用			
財務費用		67,827,336	
雑支出		1,906,561	
営 業 外 費 用 合 計			69,733,897
経 常 利 益			53,349,825
臨 時 利 益			
資産見返物品受贈額戻入		0	0
臨 時 損 失			
固定資産除却損		108,529	
その他臨時損失		915,678	1,024,207
当 期 純 利 益			52,325,618
当 期 総 利 益			52,325,618

3 業務実績

(1) 各種指標

項 目	計 算 方 式	単位	令和元年度	平成30年度	対前年度比(%)	備 考
病 床 数		床	323	323	100.0	
取 扱 患 者 数		人	167,315	166,453	100.5	
入 院 患 者		人	108,269	107,631	100.6	
外 来 患 者		人	59,046	58,822	100.4	
1 日 平 均 取 扱 者 数		人	541.8	536.0	101.1	
入 院 患 者	取扱入院患者数／年間日数	人	295.8	294.9	100.3	
外 来 患 者	取扱外来患者数／年間外来診療日数	人	246.0	241.1	102.0	
病 床 利 用 率	取扱入院患者数／延病床数×100	%	91.6	91.3	100.3	
平 均 在 院 日 数	入院延患者数／{(入院患者数+退院患者数)×0.5}	日	82.5	92.7	89.0	
入 院 外 来 患 者 比 率	取扱外来患者数／取扱入院患者数×100	%	54.5	54.7	99.6	
医師・看護師1人当たりの取扱患者数						
医 師	取扱患者数／医師延人数	人	19.0	19.8	96.0	
看 護 師	取扱患者数／看護師延人数	人	1.9	1.9	100.0	
職 員 数		人	344	344	100.0	期 末 人 数
医 師		人	24	23	104.3	期 末 人 数
看 護 師		人	241	240	100.4	期 末 人 数
そ の 他 職 員		人	79	81	97.5	期 末 人 数
病 床100床 当 た り の 職 員 数	全職員数／病床数×100	人	106.5	106.5	100.0	
医 師	職員数／病床数×100	人	7.4	7.1	104.2	
看 護 師	職員数／病床数×100	人	74.6	74.3	100.4	
そ の 他 職 員	職員数／病床数×100	人	24.5	25.1	97.6	
患 者 1 人 当 た り の 収 益						
入 院 患 者	入院収益／取扱患者数	円	24,871	24,747	100.5	
外 来 患 者	外来収益／取扱患者数	円	7,454	7,321	101.8	
医師・看護師1人1日当たりの収益						
医 師	医業収益／医師延人数	円	364,669	376,650	96.8	
看 護 師	医業収益／看護師延人数	円	36,316	36,096	100.6	
患 者 1 人 当 た り の 費 用	医業費用／取扱患者数	円	29,175	29,660	98.4	
患 者 1 人 当 た り の 薬 品 費	薬品費／取扱患者数	円	1,065	991	107.5	
入院患者1人当たりの給食材料費	給食材料費／取扱入院患者数	円	728	743	98.0	
医業収益に対する費用比率	医業費用／医業収益×100	%	152.4	156.1	97.6	
給 与 費	給与費／医業収益×100	%	111.5	113.2	98.5	
材 料 費	材料費／医業収益×100	%	8.5	8.2	103.7	
経 費	経費／医業収益×100	%	17.5	18.7	93.6	

4 患者の状況

(1) 外来患者の状況

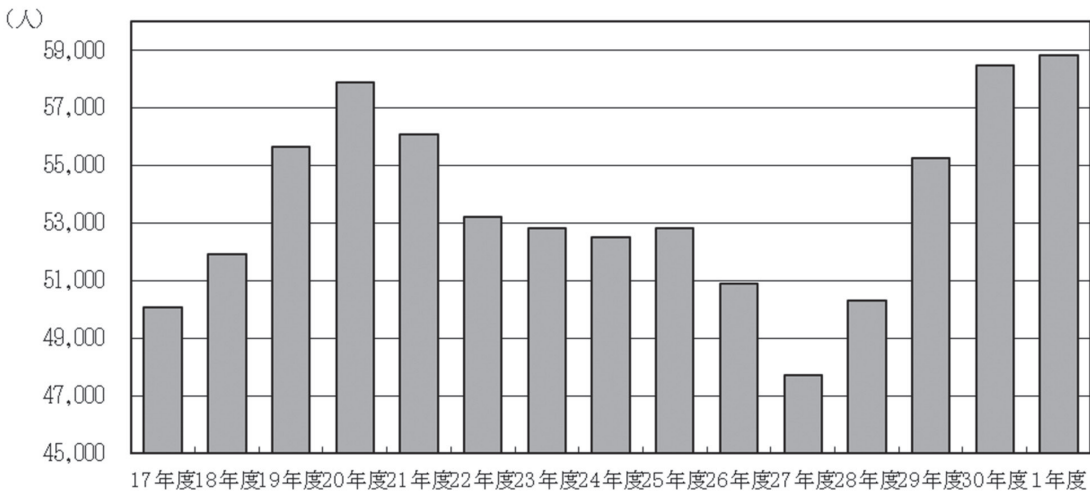
延患者数では224人増で対前年比0.3%増となっている。また、新患については127人増の対前年比6.8%増となっている。

ア 月別外来患者数

年度	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1	新 患	185	184	173	175	156	169	157	175	144	152	146	176	1,992
	再 来	4,872	4,682	4,553	5,168	4,704	4,527	5,262	4,745	4,724	4,644	4,309	4,864	57,054
	延患者数	5,057	4,866	4,726	5,343	4,860	4,696	5,419	4,920	4,868	4,796	4,455	5,040	59,046
	一日平均	252.9	256.1	236.3	242.9	220.9	247.2	258.0	246.0	243.4	252.4	247.5	240.0	245.0
30	新 患	162	152	156	137	155	144	172	150	153	159	162	163	1,865
	再 来	4,614	4,808	4,648	4,841	4,942	4,257	5,175	4,993	4,648	4,661	4,490	4,880	56,957
	延患者数	4,776	4,960	4,804	4,978	5,097	4,401	5,347	5,143	4,801	4,820	4,652	5,043	58,822
	一日平均	238.8	236.2	228.8	237.0	221.6	244.5	243.0	244.9	252.7	253.7	244.8	252.2	241.1

(注) 精神科のほか、内科・歯科受診者を含む

イ 外来患者数の年次推移状況



ウ 病類別新外来患者数

年度	病類 (ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害									
1	男	2	5	164	67	64	113	139	150	1	50	17	2	123	897
	女	2	3	74	18	44	167	206	249	12	49	18	0	72	914
	計	4	8	238	85	108	280	345	399	13	99	35	2	195	1,811
	構成比	0	0	13	5	6	15	19	22	1	5	2	0	11	100
30	男	38	8	64	23	43	102	176	194	8	41	18	4	52	771
	女	23	9	168	63	72	74	118	155	2	40	22	5	83	834
	計	61	17	232	86	115	176	294	349	10	81	40	9	135	1,605
	構成比	4	1	14	5	7	11	18	22	1	5	2	1	8	100

(注) 新外来患者とは、精神科初診患者と6ヵ月以上通院していない再初診患者のこと

エ 年齢別新外来患者数

年 度 \ 年 齢		19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
1	男	120	100	119	183	130	42	51	745
	女	156	124	109	136	90	47	108	770
	計	276	224	228	319	220	89	159	1,515
	構成比	18.2	14.8	15.0	21.1	14.5	5.9	10.5	100
30	男	137	130	133	192	108	81	53	834
	女	157	126	127	139	87	47	88	771
	計	294	256	260	331	195	128	141	1,605
	構成比	18.3	16.0	16.2	20.6	12.1	8.0	8.8	100

(注) 新外来患者とは、精神科初診患者と6ヵ月以上通院していない再初診患者のこと

オ 地域別実外来患者数

年度 居住地域		1	30	年度 居住地域		1	30	年度 居住地域		1	30
横 浜 市		4,353	4,016	横 須 賀 市	134	131	足 柄 上 郡	5	3		
	鶴 見 区	103	97	平 塚 市	50	44	中 井 町	1	1		
	神 奈 川 区	151	150	鎌 倉 市	97	101	大 井 町	0	0		
	西 区	118	106	藤 沢 市	235	210	松 田 町	2	0		
	中 区	163	154	小 田 原 市	14	15	山 北 町	0	0		
	南 区	690	641	茅 ケ 崎 市	80	73	開 成 町	2	2		
	港 南 区	805	750	逗 子 市	38	35	足 柄 下 郡	6	4		
	保 土 ケ 谷 区	287	267	相 模 原 市	55	48	箱 根 町	0	0		
	旭 区	167	149	三 浦 市	17	18	真 鶴 町	0	0		
	磯 子 区	296	274	秦 野 市	16	15	湯 河 原 町	6	4		
	金 沢 区	233	219	厚 木 市	31	31	県 内 計	5,535	5,103		
	港 北 区	113	100	大 和 市	62	50	東 京 都	166	136		
	緑 区	74	70	伊 勢 原 市	8	5	埼 玉 県	11	9		
	戸 塚 区	570	513	海 老 名 市	21	21	千 葉 県	16	13		
	瀬 谷 区	80	72	座 間 市	26	20	群 馬 県	3	1		
	栄 区	163	157	南 足 柄 市	7	7	栃 木 県	2	1		
	泉 区	208	192	綾 瀬 市	33	18	山 梨 県	1	0		
	青 葉 区	78	63	三 浦 郡 葉 山 町	9	4	静 岡 県	15	13		
	都 筑 区	54	42	高 座 郡 寒 川 町	6	5	茨 城 県	2	3		
	川 崎 市		213	211	愛 甲 郡	4	2	そ の 他 の 県	45	27	
川 崎 区		49	45	愛 川 町	4	2	県 外 計	261	203		
幸 区		27	28	清 川 村	0	0	住 所 不 明	0	0		
中 原 区		30	32	中 郡	15	16	計	5,796	5,306		
高 津 区		37	32	大 磯 町	11	12					
宮 前 区		33	34	二 宮 町	4	4					
多 摩 区		21	23								
麻 生 区		16	17								

(注) 新患・再来を含め、同一患者について一人としてカウントした数

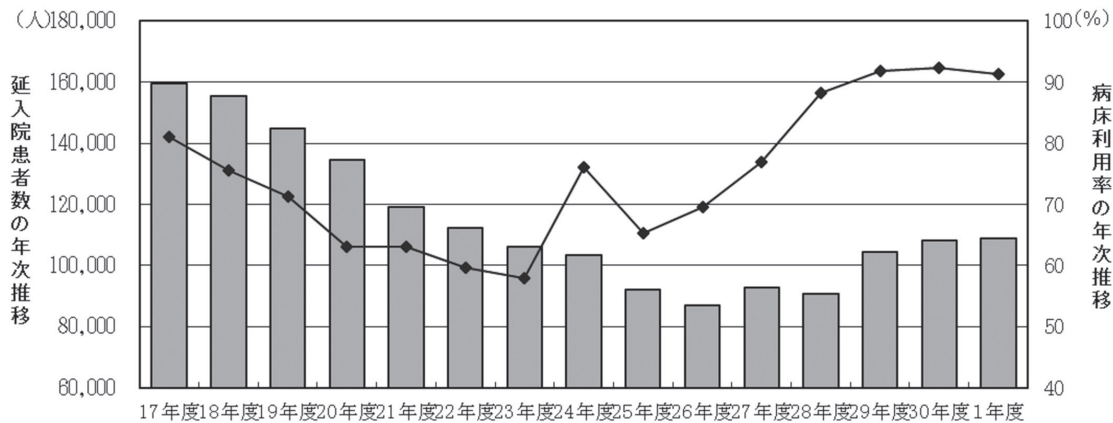
(2) 入退院患者の状況

令和元年度は、延患者数108,269人で前年度と比べ638人減で対前年度比0.6%増となっている。病床利用率は91.6%で対前年度比0.3ポイント増となっている。入院患者は前年度に比べ12.3%増となっている。入院形態は任意入院の構成比が対前年度比6.6ポイント増、医療保護入院が5.5ポイント増、措置入院が0.6ポイント減、鑑定入院は0.4ポイント増となっている。

ア 月別入退院患者数

年度	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1	入院	121	105	109	124	102	115	99	104	101	108	104	107	1,299
	退院	111	116	101	116	107	118	99	105	105	99	128	121	1,326
	延患者数	8,871	9,128	8,853	9,452	9,465	8,996	9,181	8,976	9,100	9,138	8,640	8,469	108,269
	病床利用率	91.5	91.2	91.4	94.4	94.5	92.8	91.7	92.6	90.9	91.3	92.2	84.6	91.6
30	入院	99	96	96	106	90	91	99	104	91	104	97	83	1,156
	退院	93	101	100	109	90	96	89	110	90	102	94	92	1,166
	延患者数	9,086	9,375	8,955	9,086	9,069	8,661	9,224	8,772	9,080	8,978	8,170	9,175	107,631
	病床利用率	93.8	93.6	92.4	90.7	90.6	89.4	92.1	90.5	90.7	89.7	90.3	91.6	91.3

イ 延入院患者数及び病床利用率の年次推移状況



ウ 病類別新入院患者数

年度	病類 (ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害									
1	男	2	14	137	28	38	205	81	19	0	10	10	0	19	563
	女	2	20	85	14	45	251	173	77	2	39	8	0	20	736
	計	4	34	222	42	83	456	254	96	2	49	18	0	39	1,299
	構成比	0	3	17	3	6	35	20	7	0	4	1	0	3	100
30	男	3	7	121	18	38	187	76	25	0	13	16	0	15	519
	女	4	10	57	14	48	212	135	84	4	43	11	0	15	637
	計	7	17	178	32	86	399	211	109	4	56	27	0	30	1,156
	構成比	1	1	15	3	7	35	18	9	0	5	2	0	3	100

工 病類別・年齢別入院患者数

年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	年齢構成比
	年齢	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害										
1	19歳以下	男		3	0		1	19	7	8		1	8		9	56	11.6
		女		0	1		3	40	15	18		0	3		15	95	
		小計		3	1		4	59	22	26		1	11		24	151	
	20～29歳	男			6	7	11	23	3	4		1	1		5	61	15.6
		女		15	14	5	15	26	26	21	1	17	1		1	142	
		小計		15	20	12	26	49	29	25	1	18	2		6	203	
	30～39歳	男			9	6	10	34	6	1		4	0		3	73	14.5
		女			16	6	11	37	16	10		15	2		2	115	
		小計			25	12	21	71	22	11		19	2		5	188	
	40～49歳	男		4	31	9	9	49	21	3	0	3	1		2	132	21.7
		女		0	30	2	12	54	32	10	1	5	2		2	150	
		小計		4	61	11	21	103	53	13	1	8	3		4	282	
	50～59歳	男			58	3	6	48	15	2		1				133	18.4
		女			15	1	1	45	34	9		1				106	
		小計			73	4	7	93	49	11		2				239	
	60～69歳	男	1	2	27	3	1	21	14	0						69	10.6
		女		2	9	0	2	36	16	4						69	
		小計	1	4	36	3		57	30	4						138	
	70歳以上	男	1	5	6		0	11	15	1		0				39	7.5
		女	2	3	0		1	13	34	5		1				59	
		小計	3	8	6		1	24	49	6		1				98	
	計	男	2	14	137	28	38	205	81	19	0	10	10	0	19	563	100.0
		女	2	20	85	14	45	251	173	77	2	39	8	0	20	736	
		計	4	34	222	42	83	456	254	96	2	49	18	0	39	1,299	
		構成比	0	3	17	3	6	35	20	7	0	4	1	0	3	100	
年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	年齢構成比
	年齢	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害										
30	19歳以下	男					1	25	1	5		1	11		9	53	11.0
		女					1	28	12	15	1	2	7		8	74	
		小計					2	53	13	20	1	3	18		17	127	
	20～29歳	男			7	2	11	22	3	9		6	2		4	66	16.7
		女		3	2	1	19	31	14	35	2	17	1		2	127	
		小計		3	9	3	30	53	17	44	2	23	3		6	193	
	30～39歳	男			12	3	16	24	11	1		2	2		1	72	15.9
		女			14	10	9	32	20	11		14	2			112	
		小計			26	13	25	56	31	12		16	4		1	184	
	40～49歳	男		1	28	8	7	45	18	5			1		1	114	20.5
		女		1	22	1	14	46	20	9		8	1		1	123	
		小計		2	50	9	21	91	38	14		8	2		2	237	
	50～59歳	男			44	2	3	48	19	3		2				121	19.2
		女			10	2	3	42	34	7	1	1			1	101	
		小計			54	4	6	90	53	10	1	3			1	222	
	60～69歳	男	1	2	25	3		22	15	1		2				71	10.8
		女	1	1	8			23	16	4					1	54	
		小計	2	3	33	3		45	31	5		2			1	125	
	70歳以上	男	2	4	5			1	9	1						22	5.9
		女	3	5	1		2	10	19	3		1			2	46	
		小計	5	9	6		2	11	28	4		1			2	68	
	計	男	3	7	121	18	38	187	76	25	0	13	16	0	15	519	100.0
		女	4	10	57	14	48	212	135	84	4	43	11	0	15	637	
		計	7	17	178	32	86	399	211	109	4	56	27	0	30	1,156	
		構成比	1	1	15	3	7	35	18	9	0	5	2	0	3	100	

才 地域別実入院患者数

年度 居住地域		1	30	年度 居住地域		1	30	年度 居住地域		1	30
横 浜 市		848	782	横 須 賀 市	35	34	足 柄 上 郡	0	2		
	鶴 見 区	25	26	平 塚 市	19	13	中 井 町	0	0		
	神 奈 川 区	37	33	鎌 倉 市	17	18	大 井 町	0	0		
	西 区	27	23	藤 沢 市	96	64	松 田 町	0	0		
	中 区	39	42	小 田 原 市	5	6	山 北 町	0	1		
	南 区	109	99	茅ヶ 崎 市	17	26	開 成 町	0	1		
	港 南 区	151	122	逗 子 市	11	5	足 柄 下 郡	0	0		
	保 土ヶ 谷 区	62	50	相 模 原 市	25	19	箱 根 町	0	0		
	旭 区	44	30	三 浦 市	2	3	真 鶴 町	0	0		
	磯 子 区	58	51	秦 野 市	10	4	湯 河 原 町	0	0		
	金 沢 区	45	47	厚 木 市	11	6	県 内 計	1,226	1,104		
	港 北 区	21	15	大 和 市	19	15	東 京 都	45	34		
	緑 区	16	15	伊 勢 原 市	3	2	埼 玉 県	5	4		
	戸 塚 区	96	98	海 老 名 市	3	8	千 葉 県	1	1		
	瀬 谷 区	16	13	座 間 市	10	6	茨 城 県	1	1		
	栄 区	28	30	南 足 柄 市	2	0	群 馬 県	0	1		
	泉 区	36	55	綾 瀬 市	5	6	栃 木 県	0	0		
	青 葉 区	31	18	三 浦 郡 葉 山 町	2	1	静 岡 県	6	2		
	都 筑 区	7	15	高 座 郡 寒 川 町	0	3	そ の 他 の 県	6	8		
	川 崎 市		80	74	愛 甲 郡	2	1	県 外 計	64	51	
川 崎 区		19	17	愛 川 町	2	1	住 所 不 明	9	1		
幸 区		8	6	清 川 村	0	0	計	1,299	1,156		
中 原 区		7	12	中 郡	4	6					
高 津 区		14	9	大 磯 町	0	4					
宮 前 区		12	13	二 宮 町	4	2					
多 摩 区		9	13								
麻 生 区		11	4								

力 入院費負担区分別患者数（令和2年3月末現在在院患者一覧表）

年度	負担区分 区分	健康保険法		国民健康 保 険 法	生 活 保 護 法	精神保健 福 祉 法	感染症法 (第37条)	自 費	そ の 他	計
		本 人	家 族							
1	男	2	12	57	20	8	0	0	33	132
	女	4	19	53	21	2	0	0	24	123
	計	6	31	110	41	10	0	0	57	255
	構成比	2.4	12.2	43.1	16.1	3.9	0.0	0.0	22.4	100.0
30	男	15	9	71	31	6	0	0	16	148
	女	3	30	59	28	3	0	0	11	134
	計	18	39	130	59	9	0	0	27	282
	構成比	6.4	13.8	46.1	20.9	3.2	0.0	0.0	9.6	100.0

（注）本表のその他とは、「臨床研究入院」「医療観察法」等の患者が含まれる

キ 入院形態別患者数

年度	形態	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1	任意	男	28	21	21	27	29	27	22	29	30	26	21	19	300
		女	31	34	38	37	31	40	28	30	33	37	34	37	410
		小 計	59	55	59	64	60	67	50	59	63	63	55	56	710
		構成比	48.8	52.4	54.1	51.6	58.8	58.3	43.5	56.7	62.4	58.3	52.9	52.3	54.7
	医療保護	男	12	18	12	22	13	12	16	12	8	12	11	20	168
		女	32	19	19	18	13	27	18	23	20	22	27	15	253
		小 計	44	37	31	40	26	39	34	35	28	34	38	35	421
		構成比	36.4	35.2	28.4	32.3	25.5	33.9	34.3	33.7	27.7	31.5	36.5	32.7	32.4
	措置	男	10	7	11	6	7	4	7	6	4	4	5	10	81
		女	7	6	5	12	7	5	6	3	4	6	3	3	67
		小 計	17	13	16	18	14	9	13	9	8	10	8	13	148
		構成比	14.0	12.4	14.7	14.5	13.7	7.8	13.1	8.7	7.9	9.3	7.7	12.1	11.4
	鑑定	男	0						1		1		1	1	4
		女	1						0					1	2
		小 計	1						1		1		1	2	6
		構成比	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	1.9	0.5
	応急	男							0				1		1
		女							1				0		1
		小 計							1				1		2
		構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.2
	医観法入院処遇	男			2	2	1			1	1	1	1	0	9
		女			1	0	1			0	0	0	0	1	3
		小 計			3	2	2			1	1	1	1	1	12
		構成比	0.0	0.0	2.8	1.6	2.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.9	1.0	0.9	0.9
	臨床研究	男													0
		女													0
		小 計													0
		構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	男	50	46	46	57	50	43	46	48	44	43	40	50	563
		女	71	59	63	67	52	72	53	56	57	65	64	57	736
		計	121	105	109	124	102	115	99	104	101	108	104	107	1,299
年度	形態	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
30	任意	男	22	24	28	31	23	18	23	25	22	28	18	17	279
		女	25	34	30	25	25	34	33	33	24	31	33	27	354
		小 計	47	58	58	56	48	52	56	58	46	59	51	44	633
		構成比	47.5	60.4	60.4	52.8	53.3	57.1	61.5	55.8	50.5	56.7	52.6	53.0	54.8
	医療保護	男	18	14	11	14	12	7	14	12	17	8	16	14	157
		女	14	15	15	16	15	16	18	23	15	21	19	13	200
		小 計	32	29	26	30	27	23	32	35	32	29	35	27	357
		構成比	32.3	30.2	27.1	28.3	30.0	25.3	32.3	33.7	35.2	27.9	36.1	32.5	30.9
	措置	男	6	2	7	9	8	6	4	6	6	8	10	6	78
		女	13	7	5	10	6	9	4	4	4	8	1	6	77
		小 計	19	9	12	19	14	15	8	10	10	16	11	12	155
		構成比	19.2	9.4	12.5	17.9	15.6	16.5	8.1	9.6	11.0	15.4	11.3	14.5	13.4
	鑑定	男							1						1
		女							0						0
		小 計							1						1
		構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	応急	男	1				1	0	0						2
		女	0				0	1	1						2
		小 計	1				1	1	1						4
		構成比	1.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	医観法入院処遇	男							0	1	1				2
		女							1	0	2				3
		小 計							1	1	3				5
		構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.4
	臨床研究	男				0									0
		女				1									1
		小 計				1									1
		構成比	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	計	男	47	40	46	54	44	31	42	44	46	44	44	37	519
		女	52	56	50	52	46	60	57	60	45	60	53	46	637
		計	99	96	96	106	90	91	99	104	91	104	97	83	1,156

ク 病類別・在院期間別在院患者数

年度	期間	区分	病類(ICD)		脳器質性精神障害(F0)			中毒性精神障害(F1)			統合失調症(F2)	気分障害(F3)	神経症性障害等(F4)	生理的障害等(F5)	人格障害(F6)	精神遅滞(F7)	てんかん(G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害													
1	1年未満	男		2	15	2	2	53	5	2						0		1	82	69.8
		女		2	3	1	1	51	27	4						1		6	96	
		小計		4	18	3	3	104	32	6						1		7	178	
	1～2年	男			1		1	17	0									1	20	11.8
		女			0		0	6	3									1	10	
		小計			1	0	1	23	3									2	30	
	3～4年	男						7		0									7	6.3
		女						8		1									9	
		小計						15		1									16	
	5～9年	男				0		14											14	6.7
		女				1		2											3	
		小計				1		16											17	
	10～19年	男						5											5	3.1
		女						3											3	
		小計						8											8	
	20～29年	男						2											2	1.6
		女						2											2	
		小計						4											4	
	30年以上	男						2											2	0.8
		女						0											0	
		小計						2											2	
	計	男	0	2	16	2	3	100	5	2	0	0	0	0	0	0	0	2	132	100.0
		女	0	2	3	2	1	72	30	5	0	0	1	0	0	1	0	7	123	
		計	0	4	19	4	4	172	35	7	0	0	1	0	0	1	0	9	255	
		構成比	0.0	1.6	7.5	1.6	1.6	67.5	13.7	2.7	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	3.5	100.0	
年度	期間	区分	病類(ICD)		脳器質性精神障害(F0)			中毒性精神障害(F1)			統合失調症(F2)	気分障害(F3)	神経症性障害等(F4)	生理的障害等(F5)	人格障害(F6)	精神遅滞(F7)	てんかん(G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害													
30	1年未満	男		3	16	3	7	43	12				7	0	1			4	96	73.0
		女		3	9	2	8	43	25				13	4	1			2	110	
		小計		6	25	5	15	86	37				20	4	2			6	206	
	1～2年	男			3	2		17	0									1	23	12.1
		女			0	0		8	2									1	11	
		小計			3	2		25	2									2	34	
	3～4年	男						6						0					6	3.9
		女						4						1					5	
		小計						10						1					11	
	5～9年	男				0		11											11	5.0
		女				1		2											3	
		小計				1		13											14	
	10～19年	男						7	1										8	3.9
		女						3	0										3	
		小計						10	1										11	
	20～29年	男						2											2	1.4
		女						2											2	
		小計						4											4	
	30年以上	男						2											2	0.7
		女						0											0	
		小計						2											2	
	計	男	0	3	19	5	7	88	13	0	7	0	1	0	1	0	0	5	148	100.0
		女	0	3	9	3	8	62	27	0	14	4	1	0	1	0	0	3	134	
		計	0	6	28	8	15	150	40	0	21	4	2	0	2	0	0	8	282	
		構成比	0.0	2.1	9.9	2.8	5.3	53.2	14.2	0.0	7.4	1.4	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	2.8	100.0	

ケ 病類別・転帰別退院患者数

年度	転帰	病類 (ICD)	区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
				老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害										
1	全快		男														0	0.0
			女														0	
			小計														0	
	軽快		男	0	11	100	21	33	125	65	22	0	9	12		18	416	75.3
			女	1	24	70	10	37	178	134	71	1	35	9		13	583	
			小計	1	35	170	31	70	303	199	93	1	44	21		31	999	
	未治		男		2	16	3	9	6	3	1		1	1		1	43	8.7
			女		1	17	4	13	8	9	8		7	0		6	73	
			小計		3	33	7	22	14	12	9		8	1		7	116	
	転医		男	2	6	14	2	3	64	15	3		1			2	112	15.2
			女		1	5	1	0	59	9	8		6			0	89	
			小計		7	19	3	3	123	24	11	0	7			2	201	
	死亡		男														0	0.0
			女														0	
			小計														0	
	鑑定了		男						2				0			1	3	0.4
			女						1				1			0	2	
			小計						3				1			1	5	
	医観法入院処遇終了		男						5								5	0.4
			女						0								0	
			小計						5								5	
	臨研終了		男														0	0.0
			女														0	
			小計														0	
	計		男	2	19	130	26	45	202	83	26	0	11	13	0	22	579	100.0
			女	1	26	92	15	50	246	152	87	1	49	9	0	19	747	
			計	3	45	222	41	95	448	235	113	1	60	22	0	41	1,326	
			構成比	0.2	3.4	16.7	3.1	7.2	33.8	17.7	8.5	0.1	4.5	1.7	0.0	3.1	100.0	
年度	転帰	病類 (ICD)	区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
				老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害										
30	全快		男														0	0.0
			女														0	
			小計														0	
	軽快		男		4	87	19	27	132	59	24	0	13	14		9	388	72.9
			女		7	45	8	37	139	101	64	5	40	7		9	462	
			小計		11	132	27	64	271	160	88	5	53	21		18	850	
	未治		男		0	21	3	10	7	7	2		2	0		0	52	8.9
			女		1	8	3	5	11	8	12		2	1		1	52	
			小計		1	29	6	15	18	15	14		4	1		1	104	
	転医		男		7	7	0	1	55	10	2	0	2	2		5	91	17.0
			女		8	2	1	1	60	12	7	2	11	3		0	107	
			小計		15	9	1	2	115	22	9	2	13	5		5	198	
	死亡		男						0								0	0.1
			女						1								1	
			小計						1								1	
	鑑定了		男						1								1	0.1
			女						0								0	
			小計						1								1	
	医観法入院処遇終了		男						6	1							7	0.9
			女						2	1							3	
			小計						8	2							10	
	臨研終了		男							1							1	0.2
			女							1							1	
			小計							2							2	
	計		男	0	11	115	22	38	201	78	28	0	17	16	0	14	540	100.0
			女	0	16	55	12	43	213	123	83	7	53	11	0	10	626	
			計	0	27	170	34	81	414	201	111	7	70	27	0	24	1,166	
			構成比	0.0	2.3	14.6	2.9	6.9	35.5	17.2	9.5	0.6	6.0	2.3	0.0	2.1	100.0	

コ 病類別・在院期間別退院患者数（１年度）

病類(ICD)	期間	区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害										
1 年未満	男		2	19	128	26	43	189	82	26	0	11	12		22	560	98.2
	女		1	26	92	15	50	242	151	87	1	49	9		19	742	
	小計		3	45	220	41	93	431	233	113	1	60	21		41	1,302	
1 ～ 2 年	男				2		2	7	1				1			13	1.1
	女				0		0	1	1				0			2	
	小計				2		2	8	2				1			15	
3 ～ 4 年	男							2								2	0.3
	女							2								2	
	小計							4								4	
5 ～ 9 年	男							1								1	0.2
	女							1								1	
	小計							2								2	
10～19年	男							1								1	0.1
	女							0								0	
	小計							1								1	
20～29年	男							0								0	0.2
	女							2								2	
	小計							2								2	
30年以上	男															0	0.0
	女															0	
	小計															0	
計	男		2	19	130	26	45	200	83	26	0	11	13	0	22	577	100.0
	女		1	26	92	15	50	248	152	87	1	49	9	0	19	749	
	計		3	45	222	41	95	448	235	113	1	60	22	0	41	1,326	
	構成比		0.2	3.4	16.7	3.1	7.2	33.8	17.7	8.5	0.1	4.5	1.7	0.0	3.1	100.0	

(3) 救急医療の状況

年度 / 月 / 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1	取扱件数	(20) 32	(15) 31	(18) 28	(21) 33	(17) 30	(11) 28	(15) 25	(10) 25	(10) 22	(13) 31	(9) 22	(14) 26	(173) 333
	入院	(16) 24	(14) 22	(17) 22	(19) 25	(14) 21	(8) 21	(14) 21	(9) 20	(9) 15	(10) 22	(8) 15	(13) 18	(151) 246
	外来処置	(4) 8	(1) 9	(1) 6	(2) 8	(3) 9	(3) 7	(1) 4	(1) 5	(1) 7	(3) 9	(1) 7	(1) 8	(22) 87
30	取扱件数	(17) 29	(11) 23	(15) 22	(24) 35	(21) 29	(16) 27	(9) 22	(12) 27	(11) 22	(18) 25	(12) 20	(13) 20	(179) 301
	入院	(17) 24	(9) 18	(13) 16	(20) 26	(15) 20	(14) 19	(7) 14	(10) 19	(9) 13	(17) 22	(11) 18	(12) 18	(154) 227
	外来処置	(0) 5	(2) 5	(2) 6	(4) 9	(6) 9	(2) 8	(2) 8	(2) 8	(2) 9	(1) 3	(1) 2	(1) 2	(25) 74

(注) () は、精神保健診察件数で内数

5 業務の状況

(1) 看護

ア 病棟機能と看護職員配置（令和2年4月1日現在）

副院長兼看護局長 1名			副看護局長（業務担当）1名 （教育担当）1名			
病棟名	病棟機能		病床数	看護科長	看護職員	病棟技能員 看護補助者
2 A	身体ケア	閉鎖病棟	35（準保護室 11） 結核病床（2）	1	20	3
2 B	依存症	開放病棟	45（準保護室 7）	1	20	1
3 A	地域移行支援	閉鎖病棟	40（準保護室 6）	1	17	1
3 B	ストレスケア	開放病棟	30（準保護室 3）	1	16	1
4 A	高度ケア	閉鎖病棟	40（保護室 6・準保護室 6）	1	24	1
4 B	思春期	閉鎖病棟	30（保護室 1・準保護室 6）	1	18	1
5 A	救急	閉鎖病棟	30（保護室 10・準保護室 2）	1	30	1
5 B	救急	閉鎖病棟	40（保護室 4・準保護室 8）	1	24	1
F	医療観察法病棟	閉鎖病棟	33	1	42	1
小 計			323（稼動病床数）	9	211	11
外 来				1	11	1
医療安全推進室				1		
訪問看護科					4	
地域医療連携室					1	
デイ・ケア					2	
患者サポートセンター					1	
看護教育科					2	
看護局					1	
育産休・他					11	
合 計			323	11	244	12

イ 看護局目標

1. 看護局ミッション

患者さんに寄り添い、自己決定・自立を支援し、患者さんと共に可能性にチャレンジします。

2. 看護局ビジョン

- 1) 患者さんやご家族の尊厳および人権を尊重し、患者さんの意思決定を支援します。
- 2) 精神科看護の専門性を追求し、患者さんやご家族に信頼される質の高い看護を提供します。
- 3) 患者さんの社会生活を支えるため、チーム医療の推進者としての役割を発揮します。
- 4) 看護の本質を追求し、誇りとやりがいを持てる人材を育成します。

3. 令和元年度 看護局目標

- 1) すべては患者さんのために ～患者さんの個別性に合わせた看護を実践します～
- 2) すべては組織のために ～一人ひとりの役割を発揮し組織に貢献します～
- 3) すべては私たちの元気のために ～互いを尊重し協力合う職場を作ります～

ウ 令和元年看護局目標評価

1 すべては患者さんのために ～患者さんの個性に合わせた看護を実践します～

1) 個々の精神科看護の専門性を高め、質の高い看護を実践する

精神科看護の専門性を高めるために、各セクションで特性に合わせた学習会を開催した。また、新たな治療プログラムを導入するにあたり、研修や他施設に見学に行くことで看護の視点を広げることができていた。OTやレクリエーションは、患者の個性や強みを見出す機会となり、退院支援にも役立てている。今後は、多職種参加のカンファレンスや、個性のある看護過程の展開（アセスメントから評価）の強化が課題である。

2) 院内外が多職種と協働し退院支援を実施する

長期入院患者（5年以上）の退院に向けて、モデル病棟で地域移行支援プロジェクトを立ち上げ、患者の個性に注目しながら地域で生活する力を養うためのプログラムを実施した。院内の多職種と地域機関の職員が共同で実施し、患者の状況を評価しながら地域移行につなげていった結果、プログラム対象者4名のうち2名が退院できた。長期入院患者が多くを占める他の病棟においても、患者及び家族と多職種・地域とのカンファレンスを実施し、2名が退院につながった。今後は、プログラムを他病棟にも拡大していく。

2 すべては組織のために ～一人ひとりの役割を発揮し組織に貢献します～

1) 病床の効果的な活用

平成31年4月に『ベッドコントロールの手引き』の運用を開始した。ベッドコントローラーが中心となって看護科長とともに空床や患者の情報を共有し、患者を受け入れるための調整を図った。また、患者の状態に応じて急性期病棟から亜急性期や慢性期、専門病棟への転棟調整を積極的に行った。結果、在院日数が短縮しても病床利用率の低下はなく、救急患者の入院も前年度以上に受け入れることができた。他の項目は改善してきている。表1) 参照

表1 入院医療の状況

項 目	平成 30 年度	令和元年度
救急患者入院件数	223 件	246 件
救急システム入院患者数	(190 件)	(202 件)
病床利用率	91.6%	91.6%
平均在院日数	92.7 日	82.5 日

() は救急入院患者数の内数

2) 業務のスリム化

各セクション業務の見直しを行い、患者ケアの充実および業務のスリム化を図った。また、看護局運営の各会議について効率化を図り、会議運営について毎回評価した。このことにより、事前準備が強化され、会議時間の延長も改善した。

3) COVID-19対策についての取組み

武漢からの帰国者宿泊施設にDPAT先遣隊を派遣した。その後、2月のプリンセスダイヤモンドクルーズ船の感染患者の受け入れ準備、感染の拡大に伴う入院および外来患者への対応について、院内で最新の情報を共有し感染防止対策を講じた。患者・家族の協力を得ながら、セクション間で連携・協力し積極的に取り組んだ。

3 すべては私たちの元気のために ～互いを尊重し協力合う職場を作ります～

1) 各セクションのチーム力の強化とセクション間連携強化

各セクションで看護を語る学習会を開催したり、受け持ちペアNs.制でお互いの看護を確認したりすることで、

先輩看護師の看護実践を知ったり、後輩の看護観を知る機会になっていた。このことはチーム力の強化につながっている。

病棟間の業務量の偏りを補完するためにリリーフ体制をとり、看護局全体で協力体制ができている。また、スタッフ2名が他セクションで交流研修を実施し、「2交代勤務実施に向けて」、「外来と病棟の連携を図る」と、それぞれのテーマを持って改善に取り組んだ。

3) 働き方改革に沿った勤務体制の検討

2交代制勤務の導入を推進し1セクションが開始した。自セクションの業務内容を見直すとともに、2交代制勤務を実施しているセクションの業務内容も参考にして取り組んだ。結果、夜勤前後の時間で休めるため心身への負担が軽減した、という評価があった。

4) 暴力防止対策の充実

平成30年度に看護科長会議で作成した、「暴力対応のてびき」を参考に、医療安全推進室と看護局が中心となり院内で、「患者・家族からの暴力対応マニュアル」を作成した。暴力発生時に速やかに対応できるよう整理し、全ての職員に安全な職場環境を組織全体で創っていくことを周知した。

2019年度 院内教育研修実施状況

研修名		目 的	研修日	時 間	方 法	対象者	人数
採用時	採用時研修	1. 精神医療センターの概要を理解し、組織・環境・業務への適応を図る 2. 専門職業人としての自覚を促す	4 月	5 日間	・ 講義 ・ 演習 （輸液管理/吸引/静脈血採血、筋肉注射） ・ 病院見学	2019年度新採用者、転入者、前年度採用者、交流研修者他	18
			1日(月) 2日(火) 3日(水) 4日(木) 5日(金)	8:30-17:15			
支援プログラム	基礎技術研修① (精神科看護技術)	精神科における専門的な看護技術の実践を学ぶ	4月	3 時間45分	・ 講義 ・ デモンストレーション ・ 演習	2019年度新採用者、その他看護科長が認めた者	15
			24日(木)	13:30-17:15			
	基礎技術研修② (救急蘇生法)	看護者として必要な急変時の基礎的対応を学ぶ	5月	3 時間45分	・ 講義 ・ シミュレーション ・ 演習	2019年度新採用者、その他看護科長が認めた者	9
			31日(金)	13:30-17:15			
	メンバーシップ研修	看護チームについて理解を深め、メンバーシップを発揮するための能力を養う	6月	3 時間45分	・ 講義 ・ GW（カード法） ・ ワーク	2019年度新採用者、その他看護科長が認めた者	9
			20日(木)	13:30-17:15			
ステップⅠ	看護倫理Ⅰ (看護専門職としての倫理) 院外公開	看護師としての倫理的感受性を育む	7月	3 時間45分	・ 講義（公開） ・ GW	ステップⅠを申請するもの	7
			29日(月)	13:30-17:15			
	看護過程Ⅰ (看護理論の理解)	V.ヘンダーソンの看護論を学習し、看護実践のための観察・判断能力を養う	9月	3 時間45分	・ 講義（公開） ・ GW(ペーパーペーシェント) ・ GW(ペーパーペーシェント)	ステップⅠを申請するもの	8
			9日(月)	13:30-17:15			
			10月	2 時間15分			
			8日(火)	15:00-17:15			
ステップⅡ	看護倫理Ⅱ (精神科看護と倫理) 院外公開	精神科看護における倫理的感受性を育む	7月	1 時間45分	・ 講義（公開） ・ GW ・ セクション発表	ステップⅠ以上の者または看護科長が認める者	8
			30日(火)	15:30-17:15			
			8月	3 時間45分			
			22日(木)	13:30-17:15			
	リーダーシップⅠ (チーム医療におけるリーダーシップ)	チーム医療の中で、リーダーシップを発揮できる能力を養う	11月	2 時間45分	・ 講義 ・ GW（カード法） ・ 研修後セクション報告会	ステップⅠ以上の者または看護科長が認める者	6
			11日(月)	14:30-17:15			
	看護過程Ⅱ (理論を活用した看護過程の展開)	自己の看護を客観的に見つめ、個性を踏まえた看護実践について考える	10月	3 時間45分	・ GW ・ GW	ステップⅠ以上の者または看護科長が認める者	6
			29日(火)	13:30-17:15			
			12月	3 時間45分			
			2日(月)	13:30-17:15			

研修名		目 的	研修日	時 間	方 法	対象者	人数
ステップⅢ	リーダーシップⅡ	問題解決法を学び、セクションの課題を捉えリーダーシップ能力を発揮した問題解決への取り組みができる	6 月	3時間45分	・ 講義、GW	ステップⅡ以上の者 または看護科長が認める者 ★受講推奨 ステップⅢ 2 年目	10
			10日(月)	13:30-17:15			
			7 月	2時間45分	・ GW		
			26日(金)	14:30-17:15			
			10月	3時間15分	・ 発表会		
			25日(金)	14:00-17:15			
	看護過程Ⅲ (看護理論の活用①)	日々の看護実践を振り返り、情報や判断の根拠を論理的思考によって明らかにする能力を培う	9 月	1時間45分	・ 講義	ステップⅡ以上の者 または看護科長が認める者 ★受講推奨 ステップⅢ 1 年目	11
			27日(金)	15:30-17:15			
			10月	3時間45分	・ GW		
			30日(水)	13:30-17:15			
			12月	3時間15分	・ ケーススタディ発表		
			9 日(月)	14:00-17:15			
	教育指導研修Ⅰ	教育の基本を学び、後輩指導や学生指導の場面で実践することができる	6 月	3時間45分	・ 講義 ・ GW	ステップⅡ以上の者 または看護科長が認める者 ★受講推奨 ステップⅢ 2 年目 or 1 年目	19
			3 日(月)	13:30-17:15			
			9 月	3時間45分	・ GW		
			2 日(月)	13:30-17:15			
ステップⅣ	看護過程Ⅳ (看護理論の活用②)	自身で看護理論を選択し、看護過程を展開、精神看護についての理解を深める	8 月	1時間45分	・ オリエンテーション ・ 講義	ステップⅢ以上の者 または看護科長が認める者	5
			23日(金)	15:30-17:15			
			11月	3時間45分	・ GW		
			12日(水)	13:30-17:15			
			12月	1時間45分	・ 発表会		
			17日(水)	15:30-17:15			
	教育指導研修Ⅱ	自己の経験を意味づけし、実践を適切に伝える力を養う	5月	2時間15分	・ 講義	ステップⅢ以上の者 または看護科長が認める者 *その他2019年度看護研究に取り組む者	9
			28日(水)	15:00-17:15			
			11月	1 日	・ 院内発表		
			19日(水) 20日(水)	8:30-17:15			
	看護研究	日常の課題を研究的視点でとらえ探求し実践に活かすことができる。	4 月	2時間15分	・ 講義	ステップⅢ以上の者 または看護科長が認める者	4
			16日(水)	15:00-17:15			
			6・11・1 月：外部講師指導 6 月下旬：研究計画書提出 1 月中旬：発表抄録提出		・ 外部講師による指導 3 回		
			2 月	2 時間15分			
			27日(水)	15:00-17:15	・ 発表会		
			管理研修	看護管理に必要な基礎知識を学び、セクションの管理課題について積極的に取り組むことができる。	5 月		
14日(水)	13:30-17:15						
7 月	3 時間45分	・ GW					
8 日(月)	13:30-17:15						
7 月～9 月	1 日	・ 他部署での研修					
適宜	適宜						
9 月	1 時間45分	・ 発表/機構発表					
30日(月)	15:30-17:15						
ステップⅤ	教育活動	ポイント制24年度以降の研修ポイントから適応する。 *累積50ポイントで申請ができる。			★キャリア形成支援システムマニュアルのポイント制の内容について要検討	ステップⅣ以上の者 または看護科長が認める者	0
	研究活動	教育活動・研究活動の双方は必ずポイントをとる。ただし、10ポイントは看護研究を発表することにより取得する。					1
	管理研修（院外）	セクション看護科長とキャリア面接をし、管理課題を明確にする。この管理課題を基に他施設などで研修を行なう					1

研修名			目 的	研修日	時 間	方 法	対象者	人数
役割研修	新主任研修	主任としての認識を深め、自己の役割に積極的に取り組むための能力を養う。	5 月	2 時間15分	・ 講義 ・ GW	2019年度新主任看護師	5	
			13日(月)	15:00-17:15				
			5～9 月	1 日	シャドウイング（所属病棟看護科長）			
			各セクションで実施1/0	0				
	プリセプター研修	プリセプターシップについて理解しプリセプターとしての役割行動につなげることができる	2020年	3 時間45分	・ 講義 ・ GW	2020年度プリセプター担当者	0	
			3 日(月)	13:30-17:15				
	実習指導者研修	実習指導者としての役割と関わりについて学習し、今後の指導の手がかりを得る	5 月	1 時間15分	・ GW	2019年度実習指導者会議メンバー、または看護科長が認めた者	10	
			23日(木)	16:00-17:15				
			10月	1 時間15分	・ GW		18	
			24日(木)	16:00-17:15				
	技能員・看護補助者研修	効率的な業務運営と良質な業務の実践を行うことができる	12月	1 時間	・ 講義	技能員・看護補助者	12	
			17日(火)	14:30-15:30				
その他	セクション間交流研修	他部署の看護を体験し、自セクションの看護を振り返る機会とする	随時	1～5日	シャドウイング	研修を希望するもの、または看護科長が認めたもの	2	
			随時申請可（研修者による）	8:30-17:15				
	地域連携研修	1. 社会における精神科医療の動向を知ることができる 2. 地域で暮らす患者の生活状況を知り、看護実践に活かすことができる	10月	11月	1 日目：1 日 8:30～17:15	・ 施設見学（10/31） ・ 講義（11/1） ・ GW（11/1）	15	
			31日(木)	1日(金)	2 日目：4 時間 8:30～11:30			
静脈注射研修	静脈注射の実際	医師の指示に基づいた静脈注射を安全に実施するために必要な知識・技術を習得する	7 月・8 月	半日×2	・ 講義 ・ 演習 ・ 試験（筆記、技術）	看護師が行う静脈注射プログラム規定による	10	
			2 日(火) 22日(月) 23日(金)	プログラムによる				
講演等	公開講義	認定看護師による 院外公開	4 月	90分	・ 講義、GW	全職員 院外看護職員	25	
			26日(金)	10:00～11:30				
		外部講師	家族看護	8 月	90分	・ 講義	全看護職員	17
				1 日(木)	17:30～19:00			
	看護研究発表会	看護研究活動を通して得た成果を発表し相互の学びとする	2 月	2 時間15分	・ 発表会	全看護職員	26	
			2020年2/27(木)	15:00-17:15				
	伝達講習会	院外研修の報告を受け、自己研鑽への動機づけとする	3 月	2 時間15分	・ 講習会	全看護職員	7	
			2020年3/18(木)	15:00-17:15				

2019年度 学会・院外研修参加実績

主 催	学会名・研修名	開催地	開催日	参加者
神奈川県立 病院機構本部	新採用職員研修	県内	4/8	14
	看護職員研修 医療安全	県内	6/14・11/8	5 (1)
	看護職員研修 看護倫理・臨床倫理	県内	6/24・10/21	4
	看護職員研修 人材育成	県内	6/10・10/18	4
	看護職員研修 問題解決・リーダーシップ	県内	6/17・10/28	4 (3)
	医療メディエーション研修	県内	11/27～28	1
保健福祉大学実践教育センター	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	県内	4/6～9/27 (38日間)	1
	教員・教育担当者養成課程看護コース	県内	4/6～3/31	1
	医療安全管理者養成研修	県内	10/19～1/18 (8日間)	1
県立病院交流研修	足柄上病院	県立病院	2018/10/1～9/30	1
	足柄上病院	県立病院	4/1～2020/3/30	1
	循環器呼吸器病センター	県立病院	2/3	1
済生会横浜市東部病院	保健師助産師看護師実習指導者講習会	県内	6/3～11/15	1
あびこ助産学院（助産師専門学校）	助産師養成課程	千葉	4/5～2020/3/31	1
神奈川県看護協会	医療安全管理者養成研修	県内	11/26～12/9	1
	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	県内	10/3～2020/2/28	1
	A群 看護補助者活用推進研修①	県内	6/25	1
日本精神科看護協会 (神奈川県支部)	精神科初任者研修（精神科経験1～3年）	県内	6/5～6	14
国立精神・神経医療研究センター	認知矯正療法NEAR訓練ワークショップ	東京	4/13～15	1
厚生労働省	令和元年度院内感染対策講習会	東京	2020/1/22～23	1
厚生労働省国立病院機構 久里浜医療センター	アルコール依存臨床看護研修	県内	10/28～11/1	1
神奈川県	薬物乱用防止教室指導者研修会①②	県内	①8/1 ②8/19	各1
神奈川県精神病院協会	精神科看護技術研修	県内	2020/1/28～31	1
	新人看護職員研修	県内	12/20	1
	中堅看護職員研修①②	県内	①1/17 ②2/12	①2 ②1
DPAT事務局	DPAT先遣隊研修	東京	7/13～15	2
	令和元年度DPAT統括者・先遣隊技能医事研修	東京	12/7～8	1
医療観察法関連職種研修会事務局	第15回 医療観察法関連職種研修会	熊本	9/27～28	9

主 催	学会名・研修名	開催地	開催日	参加者
厚生労働省国立病院機構	指定入院医療機関従事者研修会（初級/上級）	東京	10/3～4	6
	第4回司法精神看護コロキウム	東京	1/11	3
全国児童青年精神科医療施設協議会	全国児童青年精神科医療研修会	三重	2/7～8	2
肥前精神医療センター	強度行動障害を伴う発達障害医療研修会	東京	8/29～30	1
日本精神神経学会	第4回反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）講習会	東京	1/11	3
	NeuroStar TMS治療装置実技講習会	東京	①1/12 ②2/16	①2 ②1
自治体病院協議会	看護管理研修	東京	8/7～9	1
よこはま看護専門学校	実習指導者研修会	県内	8/22	3
横浜市病院協会看護専門学校	実習指導者研修会	県内	8/20	1
日本精神科看護協会 神奈川県支部	支部看護研究発表会	県内	10/2	2
日本看護協会	第50回 日本看護学会—看護教育—	和歌山	8/8～9	2
	第50回 日本看護学会—精神看護—	福井	8/30～31	1
	2019年度アルコール・薬物関連学会合同学術総会	札幌	10/4～6	2
全国自治体病院協議会	第58回 全国自治体病院学会	徳島	10/24～25	1
日本アディクション看護学会	第18回 日本アディクション看護学会 学術集会総会	東京	6/29～30	1
日本児童青年精神医学会総会	第60回 日本児童青年精神医学会総会	沖縄	12/5～7	1
東京女子医科大学看護学会	第15回 東京女子医科大学看護学会	東京	10/5	1
合 計				115(4)名

（ ）は聴講者数

2019年度 講師派遣等実績

1. 見学・実習（受け入れ）

項 目	対 象 者	人 数	実施月
神奈川県立保健福祉大学 保健医療福祉論Ⅰ・現場訪問	大学生	20名	8月
県立病院（交流研修）	看護師	1名	1月～12月
職場体験	中学生	5名	11月
職場体験	中学生	3名	2020. 1月
病院研修	看護学校教員	1名	7月
病院研修（看護実習指導者講習会）	看護師	1名	9月～10月（⑤日間）
病院研修	大学教員	1名	12月
病院見学	看護学生・看護師	53名	通年

2. 交流研修実施状況

研 修 施 設	日 程	実施地	人数
神奈川県立足柄上病院	2018/10/1～9/30	県内	1
神奈川県立足柄上病院	4/1～2020/3/31	県内	1
神奈川県立循環器呼吸器病センター	2020/2/3	県内	1
しのだの森ホスピタル	11/13	千葉	2

2019年度
看護師等実習生受入実績

学 校 名	5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3 学校別年間学生数
	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	上段：各学校の希望日数 下段：実習日数	人数	
県立保健福祉大学	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	363
県立よこはま看護専門学校	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	315
県立平塚看護大学	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	165
県立衛生看護専門学校 第一看護学科	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	402
県立衛生看護専門学校 第二看護学科	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	56
県立衛生看護専門学校第二看護学科 依存症見学(火～木・3日間)	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	27
横浜国立大学	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	119
国際医療福祉大学	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2 0 7 14	168
国際医療福祉大学 (ディケア)	人数 6 13 20 27	3 10 17 24	1 8 15 22	29 5 12 19	26 9 16 23	30 7 14 21	28 4 11 18	25 2 9 16	23 9 16 23	30 6 13 20	27 3 10 17	24 2 9 16	21 8 15 22	18 5 12 19	15 2 9 16	12 9 16 23	9 6 13 20	6 3 10 17	3 0 7 14	2	

(2) 作業療法 (OT)

当院の作業療法は、日常生活の回復を図り社会適応や自律を促すために様々なプログラムを実施している。作業療法科では安心していられる居場所の提供を基本に、参加患者の状態により活動プログラムを考慮し、参加患者の今後の目標を意識して治療に当たっている。その内容については表(ウ)を参照されたい。

作業療法科の人員構成は、作業療法士8名(内2名が医療観察法病棟の専従)である。1つの病棟を2人の作業療法士が担当する病棟担当制を取り、作業療法士1人あたり2～3病棟を担当している。

作業療法科では、各病棟作業療法と療法エリアでの作業療法プログラム実施に加え、集団プログラムへの参加が困難な方や、生活および身体機能の評価や訓練が必要な方に対して個別の関わりを行っている。今年度2月から次年度にかけて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため療法エリアでのプログラムを休止した。しかし外出泊が見合わせとなった入院患者のストレス緩和と体力低下予防のため病棟OTの開催は継続し、かつ『スペシャルプログラム』として普段行わないようなレクリエーション活動や布マスク作りなどを実施した。それが功を奏し延べ人員の減少は免れた。

教育関連では、作業療法士養成校の4年生1名、3年生1名を受け入れた。また、養成校への講師派遣を行い、未来の作業療法士育成を図っている。

なお、管理料に含まれているため4B病棟(思春期病棟)および医療観察法病棟では精神科作業療法を算定していないが、参考値として以下のデータには組み込んでいる。

(ア) 患者受け入れ状況

a OT実施人員

(単位:人)

年度	実 人 員					
	新 規		継 続		計	
	男	女	男	女	男	女
元	654		159		813	
	276	378	90	69	366	447
30	589		181		770	
	287	302	105	76	392	378
対前年度比 (%)	111.0		87.8		105.6	
	96.2	125.2	85.7	90.8	93.4	118.3

b 患者別受け入れ状況

年度	F0 症状性を含む器質性精神障害	F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害	F2 統合失調症	F3 気分(感情)障害	F4 神経症性障害	F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	F6 成人の人格および行動の障害	F7 精神遅滞	F8 心理的発達の障害	F9 特定不能の精神障害	G4 てんかん	計
元	20	216	302	167	50	2	30	6	10	7	3	813
30	6	213	286	135	54	4	37	18	8	6	3	770
対前年度比 (%)	333.3	101.4	105.6	123.7	92.6	50.0	81.1	33.3	125.0	116.7	100.0	105.6

c 年齢別受け入れ状況

年度	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計	平均年齢
元	49	100	122	179	177	186	813	47.0
30	51	92	141	168	173	145	770	45.2
対前年度比 (%)	96.1	108.7	86.5	106.5	102.3	128.3	105.6	

(イ) 転 帰

区分 年度	継続	終 了										中断	計
		復就 職・ 学 業	作 業 所	自 助 グ ル ー プ	デ イ ・ ケ ア	家 庭 復 帰	施 設	ア 単 バ ー ト 身	転 院	生 活 グ ル ー プ ホ ー ム ・ 生 活 訓 練 施 設	そ の 他		
元	175	1	0	10	6	425	43	83	51	9	9	1	813
30	169	10	4	25	26	340	43	75	46	14	13	5	770
対前年度比 (%)	103.6	10.0	0.0	40.0	23.1	125.0	100.0	110.7	110.9	64.3	69.2	20.0	105.6

(ウ) プログラムの内容および実施状況

プログラム名	参加延人員 (人)	内 容
フリースペースB	684	ネット手芸、刺繍、編み物、パソコン、認知機能トレーニングなど机上作業中心。
フリースペースA	480	種目はフリースペースBと同様であるが、より援助が必要な対象者が参加。
スポーツ	367	体育館やグラウンドで軽スポーツを行うグループ活動。
園芸	251	花や野菜類の栽培を実施。屋外で行うグループ活動。
のんびりスペース	251	病棟から出て落ち着いた時間を他者と共有することを目的としたプログラム。
趣味空間ふらっと	246	病棟から出て他者と時間を共有し、楽しむことを目的としたプログラム。
レッツ トライ！	226	1ヶ月に1つのテーマ（ボードゲーム、リラクセーション、陶芸、音楽療法など）を取り上げ、作業体験する。
2A 病棟OT	2,075	軽体操と認知トレーニング、レクリエーション、季節行事などを行う。週2回実施。
2B 病棟OT	1,232	『ボディメンテ』、『ワークタイム』、『ホビー』を各1回、週3回実施。
3A 病棟OT	1,981	軽体操と認知トレーニングを中心に、他レクリエーションなどを行う。週2回実施。
3B 病棟OT	1,040	『アート』（作品作り）、『さきトレ』（運動プログラム）、『リラクセーション』を各1回、週3回実施。
4A 病棟OT	1,128	作品作りと認知トレーニング、音楽の集い、個別OTなどを行う。週1回実施。
4B 病棟OT	583	個人作品作りとグループ活動を各1回、週2回実施。
5A 病棟OT	532	『めざましプログラム』、『リラクセーション』、『からだづくり』を各1回、週3回実施。
5B 病棟OT	494	『リラクセーション』、『からだづくり』を各1回、週2回実施。
個別OT	101	対象者に合わせて体操や作品作り、認知機能トレーニングなどを実施。
ド・レ・ミ♪	95	外部講師として、音楽療法士を招き音楽プログラムを月1回実施。
特別プログラム	202	カラオケ、音楽の集い、お菓子作り、作品作りなどを実施。全病棟を参加対象としたプログラムで月1回実施。
パワーアップセミナー	17	疾患、服薬、感染、コミュニケーションなどのテーマを専門職種を講師として招き学習する。年に3回程度実施。
スキルアップセミナー	15	少人数で行う統合失調症に関する疾患教育。5A・5B病棟にて1クール3回を年3回実施。
面接	91	インタークや情報収集、再評価等の面接を実施。
計	12,091	
医療観察法病棟	2,486	『ものづくり』『ガーデニング』『からだづくり』『音楽プログラム』を週1回実施。他にIADLや創作などの個別OTや多職種での目的別プログラムを実施。

(エ) 教育（実習・講師派遣）

a 実習生の受け入れ

内 容	対 象	実 施 日	人 数
作業療法 臨床実習Ⅲ	帝京平成大学 健康メディカル部 作業療法科4年	令和元年6月10日～8月3日	1
作業療法 初期臨床実習Ⅰ	首都大学東京 健康福祉学部 作業療法科3年	令和2年2月3日～2月21日	1

(3) デイ・ケア療法

外来の精神科患者を対象に社会生活機能の回復を図るため、昭和57年6月から試行し、昭和61年4月に精神科デイ・ケア療法大規模適合施設の承認を受け、本格実施した。実施にあつては、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理士の多職種チームを構成し、対象者の社会生活支援を行ってきた。

開催日は月曜日から金曜日の週5日で、平日にいつでも利用できるようになっている。治療内容は、集団精神療法や日常生活訓練、SSTや就労関連プログラムなど心理教育的プログラムを中心に、茶道・華道など外部講師によるプログラムも取り入れ、利用者の要望に応えられるように多種に及んでいる。平成18年度から診療報酬の改正に伴い、3時間程度のショート・ケアが新設された。当院デイ・ケアでも同年8月10日よりショート・ケアを導入し、新規入所者で急性期離脱後の活動性の低い方や面接を中心とした支援で就労を継続したい方などに活用していただいている。また平成15年に医療観察法が制定され、平成17年より施行された。これを受け当院デイ・ケアでも医療観察法の対象者を積極的に受け入れている。

平成26年12月の新棟開棟に伴う外来リハビリテーションの再構築のため、プログラムを再編成し、平成26年1月から外来作業療法患者のデイ・ケア移行を進めてきた。

新棟開棟直後の12月より依存症デイ・ケア（SMARPP、SARPP）を開始し、平成27年10月からmini scopを各々週1日実施している。運営に当たっては、SMARPPをデイ・ケア科が、SARPPを福祉医療相談科が、mini scopを外来看護師と心理科が主体となって行っている。

平成27年1月からリワークのデイ・ケアを週4日から開始し、翌年6月には週5日に増やした。平成30年秋よりアフターフォローを目的とした「アフターリワーク」、平成31年1月からリワークの準備性を高めることを目的とした「プレリワーク」を開催した。リワーク全般の運営に当たっては、心理科・福祉医療相談科の協力を得ながら実施している。必要に応じて、職場との面接や就労定着支援を行っている。また平成31年4月から、もの忘れリハを水、金曜日の週2日で開始している。

訪問支援の実施としては、地域活動支援センター・生活訓練施設・就労移行支援事業所などの福祉施設やハローワーク・就労相談センターなどの就労支援機関へも同行し、スムーズな地域生活への導入や移行に取り組んでいる。院内の他部門との連携としては、訪問看護部門との協力体制で主に単身者の生活を支援している。

また退院促進の一環として、退院間近の入院患者も受け入れ、スムーズな地域生活への移行を図っており、平成22年度からは、医療観察法の入院処遇（社会復帰期）の対象者も受け入れている。

地域との連携では、地区の保健福祉センターや上記同様の福祉施設の他、他デイ・ケアとの交流（作品展）や港南区ネットワーク祭りなどに参加し、交流を深めている。そして、神奈川デイ・ケア連絡会の事務局補佐として、県内デイ・ケア施設との連携にも積極的に取り組んでいる。

その他、退所後の支援として、退所者やその家族との面接も行なっている。

ア 精神科デイ・ケア

(ア) 月別参加者数

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (右：月平均)	
在 籍 者 数		168	176	176	176	175	175	178	180	184	181	186	188	2,143	179
(う ち 入 院)		6	10	8	9	8	7	5	8	9	9	9	7	95	8
(うち医療観察者法通院者)		4	4	4	4	5	4	4	4	4	5	5	2	49	4
延 数	参 加 者 延 数	631	614	642	732	655	615	688	664	621	529	486	551	7,428	619
	(う ち 入 院)	11	0	2	8	5	16	7	17	2	4	7	0	79	7
	(うち医療観察者法通院者)	21	17	20	16	14	12	18	24	23	12	8	5	190	16
	シ ョ ー ト 延 数	407	397	444	505	451	433	459	419	393	332	304	347	4,891	408
	(う ち 入 院)	5	0	1	4	1	8	3	8	1	3	6	0	40	3
平 均	参加者一日平均	29	32	32	33	31	32	34	33	31	28	27	26	370	31
	(う ち ショート)	19	21	22	23	21	23	23	21	20	17	17	17	243	20
実 施 日 数		22	19	20	22	21	19	20	20	20	19	18	21	241	20

(イ) 地域別参加者数

地域別 年 度	横 浜 市																		横 須 賀 市	鎌 倉 市	川 崎 市	相 模 原 市	藤 沢 市	そ の 他	合 計	
	鶴 見 区	西 区	中 区	南 区	港 南 区	保 土 ヶ 谷 区	旭 区	磯 子 区	港 北 区	戸 塚 区	栄 区	泉 区	神 奈 川 区	緑 区	金 沢 区	都 筑 区	瀬 谷 区	青 葉 区	小 計							
令和元年度	5	2	9	32	62	15	5	14	3	40	9	7	4	2	7	0	1	0	217	0	4	3	1	7	6	238
平成30年度	4	2	8	29	65	15	5	10	2	30	12	10	5	3	10	0	1	0	211	2	6	3	2	5	5	234

(ウ) 年齢・病名別参加者数

病 名	年 齢 別	19歳以下			20～29歳以下			30～39歳以下			40～49歳以下			50歳以上			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
中毒性精神障害 (F1)					1	5	6	4	1	5	2	2	4	3	1	4	10	9	19
統合失調症 (F2)		12	6	18	11	12	23	25	14	39	23	23	46	12	8	20	83	63	146
気分(感情)障害 (F3)			1	1	2	1	3	3	5	8	10	5	15	2	1	3	17	13	30
神経症性障害 (F4)		1	2	3	5		5	2	2	4		4	4	1		1	9	8	17
人格及び行動障害 (F6)			1	1	2	4	6		3	3		1	1	0			2	9	11
精神遅滞 (F7)		2		2	3	2	5		1	1			0	1	1	2	6	4	10
そ の 他		2		2					1	1		1	1		1	1	2	3	5
計		17	10	27	24	24	48	34	27	61	35	36	71	19	12	31	129	109	238

(エ) プログラム統計

プログラム		小計	内 容 ・ 目 的
療 集 団 精 神 法	全体ミーティング	13	DC 運営に関わる議題についてメンバー・スタッフで話し合う。
	グループミーティング(忘年会委員会)	3	行事ごとに委員会を作り、企画・立案・運営をメンバー・スタッフで実施していく。
	小 計	16	
訓 職 練 業 前	作 業	98	外部からの請負作業(やまゆり発送など)を通して、就労・作業所への準備性を高めていく。
	係の仕事	12	分担された係を体験していく中で就労・作業所などへの心構えや責任感を養っていく。
	社会復帰プラン	33	就労もしくは作業所などを指すために準備性を高める。
	小 計	143	
創 作 活 動	創 作	135	創造性を養い、情緒の表出を図るため、絵画、手工芸、文芸、共同制作等を行う。
	ものづくりサークル	24	様々な手芸品に挑戦する中で創る楽しさを体験していく。達成感を得る。
	小 計	159	
指 日 導 常 生 活	料 理・料理の買い物・話し合い	23	能力・目的別にグループ分けをし、調理に取り組む。
	生活クラブ	33	日常生活に必要な知識・技能の習得を図る。参加者の自立を促す。
	小 計	56	
活 ク ラ ブ 動 プ	グループ活動	8	担当スタッフ別のグループとなり、それぞれグループ活動に取り組む。
	クラブ活動	121	同好のメンバーが集まり、自主的にグループ運営を行なう
	小 計	129	
運 動 療 法	スポーツ	36	チームプレーを通して協調性を養う、体力作り、身体を動かす心地よさを体験すること等を目的とする。
	スポーツ大会(含む、準備、交流試合)	1	プログラムで練習した競技の大会へ参加する。
	体力測定	1	現在の体力を把握し、自己の身体への意識を高める。
	小 計	38	
音 楽 療 法	コーラス	20	外部講師の指導により、合唱の練習をし年数回成果を発表。
	ドラム	4	外部講師の指導により、ドラムを中心とした打楽器を皆で演奏をする。
	小 計	24	
認 知 行 動 療 法・ 心 理 教 育 他	健康・栄養講座(健診含む)	10	身体的な自己管理に関心を持つことを目的とし健康に関する講義を受ける。
	SST	19	対人関係の改善を目的に、課題の場面を演じながら訓練を行う。
	統合失調療法	19	統合失調症の症状や対処法などの知識を身に付ける。
	認知行動療法	19	病気の症状についての対処法を身に付けるための心理教育。
	福祉講座	2	精神障害者の動向や福祉制度の状況などを知る機会とする。
	WRAP	24	自分が元気であるための計画を立て、それを実践していく。
	健康クラブ	22	健康上の身体的問題を認識し、自己管理をしていく。
	メタ認知	19	認知の偏りを学ぶ。
	小 計	134	
シ ョ ン 活 動	パーティー、打上げ(含む、準備)	14	忘年会、歓送迎会等の準備、実施。
	外出(含む、準備)	5	社会性を養い、視野を広げることを目的とする。
	バザー、DCコンサート・港南ネット祭り・ デイクア作品展(含む、準備)	38	入院患者・職員との交流、地域福祉施設との交流を図るために参加。
	かき氷大会・すいか割り(含む準備)	2	夏の風物詩としての行事を行い楽しむ。
	施設見学(含む準備)	5	地域の通所施設等を見学し、デイクア退所後の通所先のイメージをもつ。
	小 計	64	
そ の 他	パソコン	46	外部講師の指導により、パソコンの操作を学ぶ。
	書 道	9	外部講師の指導により、各自好きな言葉を書き、添削を受ける。年数回成果を発表。
	茶 道	10	外部講師の指導により、お茶のたて方、飲み方を学ぶ。
	華 道	9	外部講師の指導により、お花のいけ方を学ぶ。
	新人オリエンテーション	5	新入所者に対し、メンバーがデイクアの説明を行う。
	アロマテラピー	1	外部講師の指導により、いろんな香りを楽しみながら、リラックスする方法を学ぶ。
	植物を育てる	19	花や野菜などの植物を育てることで季節を得ながら、達成感を得る。
	メイクアップ講座	1	外部講師の指導により、メイクの方法を学び整容への関心を高める。
	頭のトレーニング	9	クイズ・パズル等を行うことで頭のリラックス、及び活性化を図る。
	英会話	10	外部講師の指導により、英会話について学ぶ。
	スモールグループ	186	大人数のプログラムが苦手な方が、小人数で落ち着いた環境で課題に取り組むことを目的とする。
	家族会	31	家族面接の実施、福祉講座への参加呼びかけなど行う。
合 計		1,099	

(オ) 転 帰

(単位：人)

性別 \ 転帰	就労	就労移行支援	就労継続支援	支援センター	就学	家庭内適応	転院等	入院	不適応	死亡	中断	その他	DC延長	6ヶ月未満	計
男	8	5	3	1	4	0	1	0	10	3	8	2	75	18	93
女	4	0	1	1	0	2	3	4	0	2	10	0	66	16	82
計	12	5	4	2	4	2	4	4	10	5	18	2	141	34	175

(カ) 家 族 会

開催月	テーマ	開催数	参加者数
5 - 7月	家族面談	2回	33名
10月 (10/30)	障害者を取り巻く環境と就労移行支援について	1回	3名
12月 (12/4)	ためになる知識 (自律と自立)	1回	1名
10 - 12月	家族面談	2回	28名
1月 (1/23)	デイケアOBからの話	1回	6名
合 計		6回	38名

イ リワークデイ・ケア

(ア) 月別参加者数

(単位：人)

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													(右：月平均)	
在 籍 者 数	16	12	12	10	11	13	13	14	13	14	13	16	157	13
参加者延数 (デイケア)	8	7	18	18	26	19	21	15	4	12	11	12	171	14
参加者延数 (ショートケア)	89	62	51	68	104	73	96	110	111	106	56	126	1,052	88
参加者一日平均	4	4	3	4	6	5	6	6	6	6	4	7	61	5
実施回数	22	19	20	22	21	19	20	20	20	19	18	21	241	20

(イ) 疾患別参加者数

病 名	人数
うつ病	7
反復性うつ病性障害	2
双極性感情障害	6
持続性気分障害	1
適応障害	3
その他	3
計	22

(ウ) 利用者の転帰

転 帰	人 数
復職	6
転職	3
再就職	2
求職	0
中断	2
その他	0
計	13

ウ 依存症デイ・ケア

(ア) SMARPP

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
		(右：月平均)													
在 籍 者 数		8	8	9	9	10	11	10	9	9	10	13	13	119	9.9
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延数	参 加 者 延 数	25	21	22	25	18	21	19	17	19	21	21	35	264	22.0
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	6.3	5.3	5.5	5.0	4.5	5.3	4.8	4.3	4.8	5.3	7.0	7.0	65	5.4
実 施 日 数		4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	3	5	49	4.1

(イ) SARPP

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
		(右：月平均)													
在 籍 者 数		5	4	2	4	8	7	8	6	7	7	8	8	74	6.2
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延数	参 加 者 延 数	6	7	6	4	15	16	19	4	2	5	9	12	105	8.8
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	1.5	1.8	1.5	1.0	3.0	4.0	3.8	1.0	0.7	1.3	2.3	3.0	25	2.1
実 施 日 数		4	4	4	4	5	4	5	4	3	4	4	4	49	4.1

(ウ) mini-scop

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
		(右：月平均)													
在 籍 者 数		6	0	6	6	6	0	6	6	5	0	6	6	53	5.9
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延数	参 加 者 延 数	23	0	16	18	12	0	14	16	19	0	16	28	162	18.0
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	6	0	5.3	4.5	4.0	0	4.7	5.3	4.8	0	5.3	5.6	45	5.0
実 施 日 数		4	0	3	4	3	0	3	3	4	0	3	5	32	3.6

エ もの忘れリハ

(単位：人)

月 別		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計	
														(右：月平均)	
在 籍 者 数 (うち医療観察者法通院者)		1	2	3	3	3	3	3	4	4	4	4	3	37	3.0833
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延数	参 加 者 延 数 (うち医療観察者法通院者)	1	11	16	25	13	5	8	7	9	6	4	0	105	10.5
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均	参加者一日平均	1.0	1.6	2.0	2.8	1.4	1.0	1.1	1.2	1.3	1.2	1.0	0.0	15.6	1.6
実 施 日 数		1	7	8	9	9	5	7	6	7	5	4	0	68	6.8

オ 個別支援

a 相談件数

(単位：人)

手 段	本 人	家 族	退 所 者	その他関係機関
電 話	155	24	7	91
面 接	812	65	10	89
見 学	－	－	－	86

b 訪問件数

(単位：人)

職場、福祉施設など	7
-----------	---

c カンファレンス（医療観察法含む）

(単位：人)

科 内	科 外
1,818	77

カ 教 育

(単位：人)

	医療関係者	福祉関係者	行政関係者	そ の 他	合 計
研 修	165	2	0	2	169
見 学	50	32	96	19	197

(4) 検査業務

ア 心理業務

コメディカル部心理科には常勤8名、非常勤1名、計9名の心理士が在籍しており、うち常勤2名は医療観察法病棟、常勤1名は思春期病棟に専従で配属、非常勤1名は物忘れ外来の検査を担当、常勤1名は依存症病棟に配属されている。外来及びその他の病棟には窓口として担当心理士がそれぞれ配属されている。

主な業務は心理検査、心理療法（集団精神療法、個別面接等）、医療観察法業務である。心理業務のうち心理検査は、精神医学的診断を補うこと、パーソナリティの理解を深めること等を目的とし、必要に応じて検査を組み合わせ実施した。2019年10月より心理検査のフィードバックについて有料化となり、患者向けの説明資料を作成し、面接にて検査結果を説明した。心理検査のフィードバックについては、今年度は外来で41件、入院で17件の実施となった。心理療法は外来ならびに入院患者を対象とし、一対一の心理面接、集団療法などの形態で必要な心理的ケアを提供するものであ

る。主治医から依頼のあった患者に対し、アセスメント（心理検査・アセスメント面接等）に基づいて契約を結び、必要に応じて主治医との連携をとりつつ継続的な関わりを持った。面接対象患者の診断は統合失調症、うつ状態、人格障害等であった。2020年6月からは認知行動療法に基づく心理面接の有料化を図る予定である。集団療法は、多職種と協力し、病棟にて疾病教育や座談会等を中心に実施した。救急病棟においては作業療法科、薬剤科と協力し、全3回の疾病教育を年間2クール行った。

専門病棟については以下の通りである。

依存症病棟では、木曜会のプログラムを担当した。また必要時に主治医の判断によって心理検査を導入した。さらに依存症部門で実施しているプログラム等に関して、研修や研究を行った（下記2019年度研究・研修実績参照）。

ストレスケア病棟では、心理検査ならびに心理面接、心理療法（看護スタッフが行うCBTプログラム、SSTプログラムの補助）を行った。また病棟におけるカンファレンスにも参加し、協働を図った。

思春期病棟では、他職種と協力しながら各種プログラムを企画運営し、必要時に心理検査等を実施した他、病棟カンファレンス等にも参加した。

医療観察法病棟においては、各種プログラムの企画運営、心理検査・心理面接の実施、対象者の外出・外泊への付き添い、MDT会議、CPA会議、治療評価会議等多職種チームの会議等に参加した。

外来においては、医師から依頼のあった心理検査及び心理面接を実施し、その結果を報告した。必要に応じてフィードバックも行った。その他、依存症プログラムSCOP及びリワークプログラムを他職種とともに実施。SCOPでは導入前後の心理検査及びプログラムの運営を、リワークプログラムでは多職種で運営についての検討を重ね、協力してプログラム・各種面接を実施した。リワークプログラムにおいては認知行動療法（集団精神療法）、テーマトークを担当し、必要に応じて心理検査等を行った。医療観察法通院処遇対象者に対しては、治療評価会議、チーム会議、ケア会議に参加した他、必要に応じて個別面接を行った。平成29年度より開設されたものわすれ外来では、認知機能に関する認知機能検査を実施し、鑑別診断の一助として、現状の認知機能について所見を作成した。

また、臨床心理士受験資格に関する指定大学院より修士課程在学中の研修生1名を平成28年度から、週1日受け入れを行っている。

その他、院内外において以下のような研究・研修を担当した。

2019年度研究・研修実績

- ・2019年依存症セミナー
- ・令和元年度指定通院医療機関従事者研修 グループワーク
- ・依存症専門外来における感情焦点型プログラムSCOP(1)改訂版SCOPの実践報告（2019年10月第41回アルコール関連問題学会）
- ・依存症専門外来における感情焦点型プログラムSCOP(2)症例からの考察（2019年10月 第41回アルコール関連問題学会）
- ・依存症専門外来における感情焦点型プログラムSCOP(3)表出された感情と心理尺度上の変化と関連（2019年10月第41回アルコール関連問題学会）
- ・非虐待歴のある重度行為障害症例に対する成人精神科治療②心理療法過程からみる、信頼感と現実認識能力の回復（2019年12月 第60回日本児童青年精神医学会総会）
- ・医療観察法におけるクライシスプランの有効活用について（2019年6月 第15回日本司法精神医学会大会）

今後は心理職が公認心理師として国家資格化されたことに伴い、さらなる心理的援助の質の向上および拡充を図ると共に、養成にも寄与していく予定である。

(ア) 心理検査 (2019年度)

検 査 名		外来 (リワーク含)	入院 (医観法含)	計
知能検査	WAIS-Ⅳ	113	136	249
	WAIS-Ⅲ	2	0	2
	WISC-Ⅳ	24	32	56
	田中ビネー	1	0	1
	その他	0	0	0
人格検査	ロールシャッハ人格診断検査	79	83	162
	SCT 文章完成法	93	96	189
	描画検査 (バウムテスト等)	89	121	210
	P-F スタディ	79	88	167
	Y-G	9	4	13
	TEG	5	1	6
	その他の人格検査	2	5	7
認知機能検査	HDS-R, MMSE	180	166	346
	ADAS	93	1	94
	リバーミード	93	0	93
	Clock Drawing	94	1	95
	COGNISTAT	5	23	28
	WMS-R	0	1	1
	Word Fluency	0	0	0
	WSCT	0	0	0
	TMT	0	0	0
	Color Strope	0	0	0
	ペンダーゲシュタルトテスト	0	0	0
その他の心理検査	内田クレペリン検査	0	0	0
	HAM-D	24	39	63
	BDI	0	0	0
	STAI	0	0	0
	STAXI	0	0	0
	GDS	148	0	148
	SCID	0	0	0
	AQ	14	5	19
	CES-D	2	161	163
	その他	56	28	84
計 (実人数)		1,205 (345)	991 (259)	2,196 (706)

(イ) 心理療法 (2019年度)

	外来 (リワーク・依存症除)	リワーク	入院	救急病棟	ストレスケア	依存症	思春期	医療観察法病棟
心理面接等	511 (35)		91 (4)					752 (28)
集団プログラム等	37	50	29	6	92	48	87	104

※計欄 () は実人数を示す。

※外来移行後分含む。

(ウ) その他 (2019年度)

リワーク・プログラム DCとの合同のプログラムの実施	50
医療観察法 (入院病棟) 多職種チーム会議への参加	120
医療観察法 (入院病棟) ケア会議への参加	360
医療観察法 (通院処遇) 多職種チーム会議への参加	36
医療観察法 (通院処遇) ケア会議への参加	42

イ 放射線業務

一般撮影、CT撮影の延べ人数は共に10%増であった。

CT撮影は、対前年度比98.5%で、ほぼ横這いであった。

MRI撮影は認知症外来等の検査が増え、3倍にはなったが、まだまだ稼働率は低く、検査数を伸ばす事が今後の課題である。

PDI (Portable Data for Imaging、医用画像情報を含んだ可搬型媒体) は、遠隔読影が始まり、MRI読影提携先へ出力がなくなったため、予想通りExport業務は減少した。Inport業務は増えたものの、まだまだ認知度が低いのが現状である。

(ア) 一般撮影業務件数（人数及び撮影回数）

月	部位	頭 部				胸 部				腹 部				椎 骨				四肢骨				その他				合 計			
		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数		人 数		回 数	
		ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室	ポータブル	撮影室
H31. 4			3		3	10	142	10	150	7	170	7	170		1		2	1	2	2	6					18	318	19	331
R1. 5			1		1	4	125	4	127	3	155	3	155						3		6		1		3	7	285	7	292
6			1		1	5	100	5	106	2	136	2	136						4		7				7	241	7	250	
7			6		6	11	123	11	124	5	140	5	140		2		4		5		10		2		4	16	278	16	288
8			1		1	3	132	3	150	2	147	2	147		1		2	1	3	4	8		1		3	6	285	9	311
9			1		1	10	115	10	126	4	130	4	130		1		2		5		14		3		8	14	255	14	281
10			2		2	12	96	13	99	2	119	2	119						4		11		2		4	14	223	15	235
11			5		6	6	111	6	114	12	135	16	135						5		10		3		4	18	259	22	269
12		1	3	1	3	8	88	9	92	3	97	3	97		2		4		7		18		1		3	12	198	13	217
R2. 1			1		1	8	95	9	98	2	103	2	103		1		2		3		5		1		1	10	204	11	210
2						7	105	7	108	4	112	4	112		2		4		3		8		2		5	11	224	11	237
3			1		1	4	105	5	112	4	115	5	115	1	1	2	2	1	4	2	10		2		2	10	228	14	242
合計		1	25	1	26	88	1,337	92	1,406	50	1,559	55	1,559	1	11	2	22	3	48	8	113	0	18	0	37	143	2,998	158	3,163
構成比 (%)		0.0	0.8	0.0	0.8	2.8	42.6	2.8	42.3	1.6	49.6	1.7	46.9	0.0	0.4	0.1	0.7	0.1	1.5	0.2	3.4	0.0	0.6	0.0	1.1	4.6	95.4	4.8	95.2

(イ) CT検査業務件数

月	頭 部	胸 部	腹 部	椎 骨	四肢骨	その他	合 計
H31. 4	110	13	26				149
R1. 5	108	9	12		1		130
6	106	11	22				139
7	119	15	28				162
8	87	22	27		2		138
9	90	16	22		1		129
10	86	9	18			1	114
11	96	8	17				121
12	76	16	32		2		126
R2. 1	87	7	13		1		108
2	82	18	14		2		116
3	94	12	13				119
合 計	1,141	156	244	0	9	1	1,551
構成比 (%)	73.6	10.1	15.7	0.0	0.6	0.1	100.0

(ウ) MRI検査業務件数

月	部位	頭 部	胸 部	腹 部	椎 骨	四肢骨	その他	合 計
H31. 4		12						12
R1. 5		18						18
6		20						20
7		26						26
8		24						24
9		23		1				24
10		29						29
11		30						30
12		13						13
R2. 1		19						19
2		19						19
3		22						22
合 計		255	0	1	0	0	0	256
構成比 (%)		16.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	100.0

(エ) PDI依頼件数

月	種別	Export	Inport	合 計
H31. 4		3	1	4
R1. 5		8	1	9
6		12	3	15
7		10	5	15
8		14	3	17
9		7	1	8
10		17	1	18
11		10	1	11
12		14	3	17
R2. 1		16	2	18
2		4	3	7
3		7	2	9
合 計		122	26	148

(オ) 一般撮影業務件数推移

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	前年度比(%)
延べ人数	1,936	1,796	1,725	1,732	1,806	1,834	2,373	2,556	2,549	2,771	3,141	113.4
延べ回数	2,542	2,232	2,070	2,081	2,204	2,251	2,989	3,225	3,101	2,953	3,321	112.5

(カ) CT検査業務件数推移

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	前年度比(%)
延べ人数	968	886	942	975	964	958	1,131	1,285	1,389	1,368	1,551	113.4

(キ) MRI検査業務件数推移

	30年度	31年度	前年度比(%)
延べ人数	82	256	312.2

(ク) PDI依頼件数推移

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	前年度比(%)
Export	77	82	70	171	122	71.3
Inport	6	19	13	11	26	236.4

ウ 臨床検査業務

	院内処理件数		委託処理件数		合 計	
	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度
一 般 検 査	22,327	20,263	60	49	22,387	20,312
血 液 検 査	23,787	21,176	27,465	24,578	51,252	45,754
生 化 学 的 検 査	36,917	31,172	92,934	84,157	129,851	115,329
内 分 泌 学 的 検 査	0	0	5,103	4,098	5,103	4,098
免 疫 学 的 検 査	981	566	6,583	5,932	7,564	6,498
病 理 学 的 検 査	0	0	1	2	1	2
微 生 物 学 的 検 査	0	0	209	183	209	183
生 理 機 能 検 査	1,846	1,624	0	0	1,846	1,624
計	85,858	74,801	132,355	118,999	218,213	193,800

(5) 福祉医療相談科業務

福祉医療相談科は、ご本人・ご家族や地域関係機関等からの受診・入院相談窓口としての機能と退院支援やケースワーク、退院後の治療継続や地域生活に関わる各種相談、経済的問題、福祉制度・サービスの案内等々に対応し、ご本人ご家族との信頼関係の継続や地域連携を重視して相談業務に取り組んでいる。

平成26年4月の精神保健福祉法の一部改正により、医療保護入院者の退院支援の役割を果たすために、退院後生活環境相談員として入院の時点からご本人及びご家族に対し、相談支援を行い、医療保護入院継続の妥当性を図るための「医療保護入院者退院支援委員会」を令和元年度は150件開催した。

救急医療については平成15年度に26床の救急病棟として整備され、現在は70床のうち16床が神奈川県基幹病院としてシステム救急用のベッドとなっている。救急については、本人・家族との面接や生活問題に関する調整をはじめ、県・横浜市・川崎市・相模原市担当課や後方病院との連絡調整などに関わっている。

地域移行（退院支援）については、平成15年度から長期在院者の退院促進に対する取り組みを進めてきたが、新病院となり地域連携室をはじめ多職種連携で更なる取組みを行っている。

平成17年度から施行された医療観察法の指定医療機関として、鑑定入院および、通院医療を開始して平成21年度に小規模病棟から開始して平成24年度からフル規格病棟での入院医療を受け入れている。医療観察法病棟には3名のソーシャルワーカーを配置して対応している。（エで再掲）。

平成20年4月からは自殺予防対策の一環としてうつ病を対象としたストレスケア病棟を開棟した。病棟担当者はリワークプログラムにも多職種チームのスタッフとして参加している。

依存症担当者は入院、外来患者への対応と共に、依存症ショートケアで行っているSARPPプログラムや感情を扱うSCOP、薬物、アルコール家族会のファシリテーターを担当している。

思春期病棟の担当者は、受診・入院相談、家族相談への対応や児童相談所や教育機関など地域関係機関等との連携構築を行っている。平成29年度より、県立こども医療センターと医師を交えた多職種での連絡会を定期開催し、過剰児へ

の通院先移行や入院の受け入れ等、連携を強化した。

もの忘れ外来担当は、受診相談の他に、認知症シンポジウムで当日の相談も担当した。

地域支援としては、地域移行定着事業への協力、区の各種ネットワーク会議等への参加、依存症の回復施設の運営協議会に参加している。

依存症治療拠点機関として、「依存症ポータルサイト」の運営や、依存症セミナー開催・普及啓発動等を多職種協働で実施した。

医療観察法指定医療機関のワーカーを中心とした、かながわ司法精神医療福祉ネットワークを主催、および全国医療観察法指定入院医療機関 P S W 連絡協議会に参加して連携の強化を図っている。

その他、メディエーター活動や、かながわDPATチームに参加するなどソーシャルワーカーの担う役割は更に広がってきている。

ア ソーシャルワーク業務

(ア) 内容別相談件数

内 容	令和元年度				平成30年度計
	外 来	入 院	受診相談	計	
受診援助	1,304	196	4,720	6,220	5,383
入院援助	1,000	1,374	1,903	4,277	4,045
退院援助	175	6,728	10	6,913	6,099
心理的情緒的援助	1,299	1,738	76	3,113	3,031
経済問題援助	271	1,233	6	1,510	1,945
福祉制度利用援助	1,721	4,761	26	6,508	5,830
家族問題援助	410	724	127	1,261	1,247
住宅問題援助	96	408	1	505	561
就労問題援助	95	66	5	166	167
教育問題援助	58	211	3	272	217
権利擁護	33	481	1	515	439
退院請求処・遇改善請求	6	296	3	305	276
他医療機関との連携	1,738	2,240	642	4,620	3,891
依存症	3,130	2,883	1,503	7,516	6,200
医療観察	373	1,895	15	2,283	2,848
ストレス	398	389	534	1,321	1,215
思春期	460	763	1,049	2,272	2,261
その他	1,788	2,299	258	4,345	4,668
計	14,355	28,685	10,882	53,922	50,323

(イ) 実施方法別相談件数

内 容	令和元年度				平成30年度計
	外 来	入 院	受診相談	計	
面接	2,650	11,529	356	14,535	13,984
電話	10,261	14,404	10,323	34,988	31,645
外出	36	427	0	463	478
訪問	35	57	3	95	138
ケア会議	215	1,088	7	1,310	1,567
グループワーク	632	83	0	715	733
書類	239	504	71	814	698
その他	287	593	122	1,002	1,080
計	14,355	28,685	10,882	53,922	50,323

イ 地域連絡会議

県立病院機構メディエーター連絡協議会

会 議 名	場 所	実 施 日
県立病院機構メディエーター連絡協議会	機構本部等	1回／月

港南区地域生活支援会議

会 議 名	場 所	実 施 日
2019年度 港南区自立支援協議会代表者会議	港南区福祉活動拠点	2019年5月22日
第1回全体会	港南区役所	2019年6月5日
第2回全体会	港南区役所	2019年12月12日
第1回港南区自立支援協議会	港南区役所	2019年6月5日
第2回港南区自立支援協議会	港南区役所	2019年10月1日
第3回港南区自立支援協議会	港南区役所	2019年12月12日
第4回港南区自立支援協議会	港南区役所	中止

子どものこころの診察ネットワーク事業

会 議 名	場 所	実 施 日
第8回神奈川県地域児童青年期精神科入院医療の連携を考える会	地球市民かながわプラザ	中止

ウ 協議会、見学会、研修受け入れ、講師派遣等
協議会等

内 容	場 所	参 加 日
自治体病院協議会精神科特別部会研修会	山形県	2019年8月28日 〃 8月29日 〃 8月30日
精神科特別部会コメディカル部 第17回関東ブロックコメディカル会議	山梨県立北病院	2019年10月9日
精神科特別部会コメディカル部 第18回関東ブロックコメディカル会議	静岡県立こころの医療センター	中止
神奈川県依存症治療拠点機関等連携会議	北里大学東病院	2019年11月20日
薬物依存のある保護観察対象者等に対する地域支援連絡協議会	万国橋センター	2020年1月22日
医療観察法地域連絡協議会	横浜保護観察所	2019年12月11日

見学会・意見交換会

内 容	場 所	参 加 日
横浜市南部スクールソーシャルワーカー	当センター	2019年9月25日

実習受け入れ

依 頼 校	人 数	実 施 日
日本福祉大学	1名	2019年5月13日～5月29日
神奈川県立保健福祉大学	2名	2019年6月19日～7月12日 2019年8月6日～8月27日
上智社会福祉専門学校	1名	2019年9月2日～9月18日

現任者の視察・研修受け入れ

内 容	人 数	実 施 日
神奈川県精神保健福祉新任研修	6名	2019年7月11日
令和元年度薬物依存症対応力向上研修	10名	2019年11月5日～12月6日
栃木刑務所依存症家族会見学	1名	2019年11月25日
社会復帰調整官実務実習	1名	2020年1月28日～1月31日

講師派遣

内 容	場 所	実 施 日
薬物依存対象者の引受人等会	横浜保護観察所	2019年7月26日 〃 12月6日
2019年度司法精神医療等人材養成研修（指定通院）	国立病院機構本部	2019年12月13日
アルコール関連問題援助職研修	西区高齢・障害支援課	2019年12月23日

薬物乱用防止教室講師派遣

学 校・団 体	実 施 日
川崎市立橘高等学校	2019年 5 月27日
神奈川県立生田高等学校	2019年 7 月22日
神奈川県立白山高等学校	2019年10月24日
相模原市立緑が丘中学校	2019年10月29日
神奈川県立川和高等学校	2019年11月18日
神奈川県立多摩高等学校	2019年12月 5 日

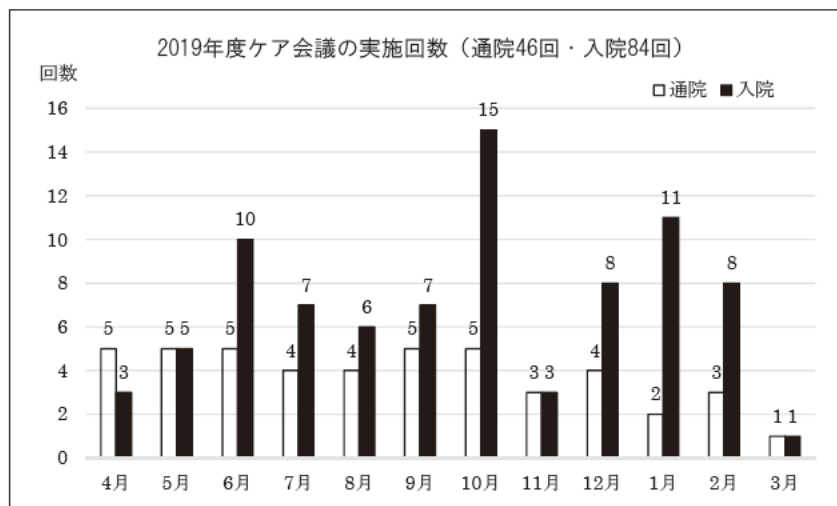
エ 医療観察制度の取組み

H17年 7 月15日より施行された「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察制度）」では、医療と司法が連携の上で対象者の社会復帰に必要な処遇（それに伴う入院及び通院医療）を行なうとされている。当院では鑑定入院ならびに医療観察法病棟における入院医療、外来・訪問看護・デイケアなどを基本とした通院医療を、それぞれ多職種チーム（MDT）を編成して提供している。入院医療では週に 1 回の治療評価会議と通院医療のMDT会議をベースに、通院医療では月に 1 回のMDT会議をベースにして、3 ヶ月に 1 回程度のケア会議の中で処遇方針を協議して実施している。また、医療観察法運営会議を入院・通院ともそれぞれ月に1回開催している。通院処遇については、福祉医療相談科に統括の医療観察担当者（兼任）が配置され、訪問看護調整者と連携の上で全体調整及び直接処遇を行なっている。通院処遇対象者は、15名を上限として受け入れ可能であるが、これは全国的にみてもかなり多い受け入れ人数である。入院病棟においては 3 名の担当者を配置しMDTメンバーとして関わっている。H22年度からは事務担当が 1 名配置され、各種手続き書類や評価シートなどの文書整理やケア会議等のスケジュール管理など、マネジメント機能が飛躍的に充実強化されている。また、院内研修の実施および他県の医療機関等の視察研修や新任社会復帰調整官の研修も受け入れている。なお引き続き、円滑な制度運営に向けて、県内の指定医療機関・入所施設・行政機関のソーシャルワーカーおよび社会復帰調整官のネットワーク（かながわ司法精神医療福祉ネットワーク）、横浜地方裁判所裁判官・書記官の医療観察病棟の見学及び意見交換会を実施している。国立病院機構主催の指定医療機関従事者研修の講師も継続して担当している。

対象者数

	2019年度新規対象者数	累計（H17年度より）
鑑定入院	2	45
入院医療	11	98
通院医療	1	60

ケア会議の実施回数



連絡会

内 容	開催場所	実 施 日
かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議	愛光病院	2019年4月18日
	当センター	2019年7月19日
	横浜保護観察所	2019年10月18日
	北里大学東病院	2020年1月17日

講師派遣（再掲）

内 容	開催場所	実 施 日
司法精神医療等人材養成研修（指定通院）	国立病院機構本部	2019年12月13日

オ 神奈川県弁護士会による法律相談会

精神科医療を受ける上で生じる権利擁護やさまざまな法律に関わる問題（借金、家族関係など）について、精神保健福祉士として迅速かつ適切な相談および対応方法の提供を行ってきた。さらにH24年度に開棟した33床からなる医療観察法入院病棟における権利擁護支援の一環として位置づけるために、法律の専門家である弁護士の相談を定期的に開催し密な連携を図っていくことを目的として、H23年度のモデル期間を経て、月に1回（第3木曜日）の神奈川県弁護士会による法律相談会を継続開催している。その後対象者は救急、ストレス、一般病棟の入院患者にも広げ、PSWが権利擁護の視点を大切に、申込み時の面接を行ない窓口弁護士との調整をはかった上で、希望者の人数により2人の弁護士に対応してもらった。各病棟と連携し希望者が漏れることなく、安心して相談できる体制を整えている。個別相談の他に弁護士の先生による病棟説明会も開始している。

実績

回 数	月 日	利用者数	キャンセル
第1回	4／18	4名	0名
第2回	5／16	3名	0名
第3回	6／20	4名	2名
第4回	7／18	4名	0名
第5回	8／15	3名	1名
第6回	9／19	2名	0名
第7回	10／17	4名	1名
第8回	11／21	2名	0名
第9回	12／19	1名	0名
第10回	1／16	1名	0名
第11回	2／20	2名	0名
第12回	3／19	2名	1名

(6) 訪問看護業務

訪問看護科は、令和元年度より連携サポートセンター地域連携部に所属している。

専任の看護師4名が従事するほか、所属およびコ・メディカル、外来、病棟の職員等多職種が協働し訪問看護を行っている。

訪問看護科では、病棟からの定期的な訪問看護を導入する役割を担う一方、外来と連携し通院患者宅に訪問し支援の必要性を評価している。また連携サポートセンターや多職種会議からの情報を得ながら、長期入院や困難ケースに対して地域移行・定着に向け訪問看護等を利用しやすい準備を行っている。

対象者と入院中から関わり関係性を構築し、多様なニーズに対応するために訪問看護計画の立案や客観的な指標を用いて定期的な評価を行っている。また、地域の訪問看護ステーションと連携し、対象者が安心して訪問看護を継続できるよう計画的な地域移行に取り組んでいる。

1) 平成20年度から令和元年度までの年間訪問看護件数

年 度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	01
件 数	2,888	2,903	2,966	3,004	2,969	2,592	2,235	2,237	2,352	2,473	2,440	2,683

2) 令和元年度 月別訪問看護件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問件数	197	205	219	235	218	211	246	232	228	232	222	238	2,683
利 用 者	157	160	162	162	164	164	167	168	169	171	174	159	164(平均)
C F件数	12	13	10	9	9	13	12	5	13	11	9	8	124

3) 令和元年度 診療報酬別訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間件数
訪問Ⅰ	189	199	210	229	206	207	238	228	218	216	206	224	2,570
訪問Ⅲ	8	6	9	6	12	4	8	4	10	16	16	14	113
退院前訪問	9	3	7	3	13	9	9	6	8	6	5	0	78
合計	206	208	226	238	231	220	255	238	236	238	227	238	2,761
うち複数訪問	45	67	45	53	33	50	38	33	40	61	45	48	558

4) 令和元年度 月別新規申し込み件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	2	2	2	1	2	0	4	4	3	2	5	1	28
外来評価訪問	2	1	3	1	0	2	1	1	0	2	1	2	16

5) 令和元年度 病棟別新規申し込み件数

外来		2A	2B	3A	3B	4A	4B	5A	5B	F	合 計	
6											28	
一般	医観										一般	医観
21	1	2	1	8	1	3	0	1	5	0	27	1

6) 令和元年度 終了ケース

目標達成	施設利用	転院	長期入院	中断・拒絶	死亡	地域移行	合 計
4	1	1	0	3	3	14	26

7) 令和元年度 疾患別分類

病類	F0 脳器質性 精神障害	F1 中毒性精 神障害	F2 統合失調 症	F3 気分障害	F4 神経症性 障害等	F5 生理的障 害等	F6 人格障害	F7 精神遅滞	F8 心理的発 達の障害	F9 特定不能の 精神障害	G4 てんかん	合計
件数	0	1	80	12	4	0	7	3	0	0	0	107

8) 令和元年度 地域別分類 (令和2年3月現在)

横浜市

地域	港南区	戸塚区	南区	保土ヶ谷区	磯子区	栄区	金沢区	旭区	泉区
件数	37	19	18	10	6	4	3	2	1
地域	神奈川区	中区	西区	合 計					
件数	1	1	1	103					

県域

地 域	横須賀市	藤沢市	鎌倉市	大和市	合計
件 数	1	1	1	1	4

9) 年齢別区分 (令和2年3月現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合 計
1	7	9	33	28	19	8	2	107

10) 令和元年度 男女・住居別分

	男性	女性
単身生活	23	20
家族同居	23	29
施設入所 (GH含)	6	6
合 計	52	55

(7) 地域医療連携業務

患者・家族が安心して精神科医療を受けられ、また、安心して生活が送れるために地域医療・行政・福祉・病院の連携が重要である。当センターと地域をつなぐ“架け橋”の役割を担うため、2016年4月地域医療連携室として開室。準備期間を経て同年9月業務を開始した。スタッフは医師、看護師、精神保健福祉士、事務担当の多職種で構成している。

ア 地域医療連携室業務内容

(ア) 他の医療機関からの転院調整

- ・診療科を問わず他の医療機関からのm-ECT（修正型電気けいれん療法）、クロザピン治療、急を要さない受診や転院を調整。

(イ) 入院患者の社会復帰支援

- ・地域生活を支援するための制度や利用できる社会資源を知り、退院促進へとつなげられることを目的に、横浜市地域移行・地域定着支援事業と協働。

(ウ) 見学・研修の受入調整

- ・当センター主催の「専門病棟見学会」の広報、問合せ窓口。
- ・見学、研修を希望する関係機関の受入調整及びプログラム構成等。

(エ) ベッドコントロール

- ・全病棟の回転率の向上と即日入院の受け入れを可能にすることを目的に、ベッドコントロールを行っている。

(オ) 身体合併症発生時の対応

- ・当院では対応困難な事例発生時に病棟と連携し、総合病院や専門病院への受診や転院調整。

(カ) 普及啓発

- ・地域・関係機関と共催し、地域住民向けに精神疾患の理解につながるような講座を開催。

(キ) 地域連携

- ・施設見学（グループホーム、更正施設等）の企画、実施。

(ク) r-TMS（反復経頭蓋磁気刺激）見学調整

- ・r-TMS療法の導入を検討している医療機関対象に見学調整。

(ケ) MRI・CT依頼検査調整

- ・地域医療機関と連携のため、3テスラMRI及び80列CTの依頼検査を調整。

(コ) 認知症

- ・一次検診（横浜市認知症早期発見モデル事業）調整。
- ・認知症シンポジウム問合せ窓口。
- ・認知症シンポジウム開催の協力。

A 他の医療機関からの転院調整

	m-ECT	クロザピン	一般	全体
問合せ件数	28	14	45	87
受入件数	6	3	18	27

B 見学・研修調整

件数	機 関 名	参加者数
1	ハートクリニック大船	2
2	港南区内地域包括支援センター主任ケアマネージャー分科会	10
3	港南区役所	7
4	神奈川県弁護士会	10
5	鹿児島県立始良病院	4
6	泉区役所	29
7	金沢区保護司会・神奈川県業務課	18
8	青葉区生徒指導専任教諭協議会	13
9	神奈川県医療ソーシャルワーカー協会新人研修部門	6
10	横浜市立小中学校校長会 生徒指導部会	51
11	千葉県君津児童相談所等	8
12	帯広刑務所	3
		合計 161名

C 勉強会開催

日 程	テ ー マ	場 所
令和1年9月30日	寿町を知る	寿町

D 病院見学会

	日 程	テ ー マ	参加人数
第1回	令和1年9月26日	依存症について	28
第2回	令和1年10月16日	気分障害とストレスケア	41
第3回	令和1年11月28日	精神科救急について	43
第4回	令和1年12月19日	思春期の精神疾患について	46
第5回	令和2年1月16日	治療抵抗性統合失調症の治療	32
第6回	令和2年2月20日	精神障害回復への援助	
			合計 190名

※第6回は新型コロナ感染防止にて中止

E 身体合併時対応

身体合併症発生時の受診・転院調整・同行 … 7件

F 地域連絡会議

日 程	会 議 名	場 所
令和1年5月17日	第1回県立病院地域医療連携担当学会議	病院機構本部
令和1年9月20日	第2回県立病院地域医療連携担当学会議	病院機構本部
令和1年11月15日	第3回県立病院地域医療連携担当学会議	病院機構本部
令和2年2月7日	第4回県立病院地域医療連携担当学会議	病院機構本部
令和1年11月22日	精神保健福祉業務連絡会	栄区役所
令和1年12月3日	精神保健福祉業務連絡会	港南区役所
令和2年1月23日	精神保健福祉業務連絡会	戸塚区役所

G 講演依頼・講師派遣調整

日 程	依 頼 元	テ ー マ
令和1年7月19日	大岡地区民生委員児童委員協議会	認知症とその対応について
令和1年9月7日	横浜市港南福祉保健センター	眠りを変えてこころスッキリ！ ～今日から始めよう快眠習慣～
令和1年9月24日	横浜市芹が谷地域プラザ	専門家に学ぶ“もの忘れ”と認知症
令和1年10月3日	横浜市日下地域ケアプラザ	認知症の理解と介護について
令和1年11月19日	横浜市こころの健康相談センター	若者の生きづらさと自傷行為、自殺対策
令和1年11月22日	横浜市こころの健康相談センター	若者の生きづらさと自傷行為、自殺対策

H r-TMS（反復経頭蓋磁気刺激）見学調整

日 程	施 設 名	参加人数
令和1年9月19日	公益財団法人積善会 日向台病院	3
令和1年10月24日	静岡県立こころの医療センター	4
令和1年10月24日	社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院	2
令和1年10月31日	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター	2
令和1年12月12日	東京都松沢病院	1
令和2年1月16日	国際医療福祉大学熱海病院	3
令和2年3月19日	医療法人杏和会 阪南病院	4
令和2年3月19日	医療法人財団青山会 福井記念病院	5
令和2年3月26日	八尾こころのホスピタル	3
		合計 27名

I ベッドコントロール

全病棟の回転率の向上と即日入院の受け入れを可能にすることを目的に、ベッドコントロールを行っている。

J MRI・CT依頼検査調整

問合せ	4件
実 施	3件

K 認知症一次検診調整（横浜市認知症早期発見モデル事業）

問合せ	10件
実 施	10件

L 認知症シンポジウム

日 程	場 所
平成31年 4月27日	よこすか芸術劇場
令和元年11月 9日	湘南台文化センター

(8) 薬剤業務

調剤業務は、年間処方せん枚数は入院65,442枚、外来44,793枚（うち院外処方せん42,810枚、院内処方せん1,983枚、院外処方せん発行率95.6％）で、1日平均枚数は入院178.8枚、外来186.6枚（うち院外処方せん178.3枚、院内処方せん8.3枚）であった。

薬剤情報提供業務（外来・院内処方）は、服薬アドヒアランス向上等を目的として対象患者さん全員に行っている。薬剤情報提供料の算定は1,131件であった。

薬剤管理指導業務（入院）は、指導実患者数423人（前年度418人）、指導回数1,939回（前年度1,886回）で、それぞれ対前年度比101.2％、102.8％と増加した。また、クロザピンを服用している患者さんについては原則全員行っている。

製剤業務は、製剤品目は5品目で、そのうち4品目は散剤の予製で調剤業務の効率化に役立っている。

「医療安全報告書」は電子カルテ上のソフト「ファントルくん」に入力しており、薬剤科の報告件数はレベル0が22件、レベル1が6件、その他0件で合計28件であった。

薬品管理業務は、購入薬品数は655品目であった。薬効別薬品購入額は、中枢神経系用薬が85.3％、循環器官用薬と消化器官用薬及びその他の薬剤が14.7％であった。

調剤室の全薬品の在庫量の確認を半期毎に実施した。病棟・外来の常備・救急薬品の管理については、薬剤師による点検を毎月実施した。

薬事会議は4回開催した。新規採用医薬品14品目、緊急購入医薬品109品目、削除医薬品15品目、後発品への切り替えは9品目であった。後発医薬品の使用割合（数量ベース）は79％（令和2年3月末）である。

医薬品情報管理業務は、「医薬品情報」（DIニュース）を9回発行した。

入院及び外来の各種教育プログラムにおいて、18回集団指導を行った。

A 令和元年度調剤数

※外来は外来稼動日数240日で、入院は366日で算出

区 分	処方せん枚数（枚）	剤 数（件）	延べ剤数（剤）	1 日 平 均 ^{*)}	
				剤 数（件）	延べ剤数（剤）
入 院	65,442	189,141	1,044,617	516.8	2,854.1
外 来	1,983	12,268	196,566	51.1	819.0
計	67,425	201,409	1,241,183		

B 令和元年度注射剤払い出し数

注射せん枚数（枚）	500mL未満（本）	500mL以上（本）	計（本）
8,100	9,861	3,937	13,798

C 令和元年度製剤数

内服散剤（g）	外 用 液 剤（mL）		軟 膏 剤（g）	錠剤の粉碎（錠）
	非 滅 菌 製 剤	滅 菌 製 剤		
2,293	22,500	0	0	0

D 令和元年度薬品購入（剤型別）

剤 型	品 目		購 入 額	
	数	割 合（％）	金 額（円）	割 合（％）
内 用	481	73.4	102,894,398	54.1
注 射	88	13.4	84,973,719	44.7
外 用	83	12.7	2,263,436	1.2
消 毒 液	3	0.5	36,944	0.0
計	655	100.0	190,168,497	100.0

E 令和元年度薬品購入（薬効別）

薬 効		品 目		購 入 額	
		数	割 合（％）	金 額（円）	割 合（％）
中枢神経系用薬	精 神 神 経 用 剤	148	22.6	143,150,182	75.3
	抗 て ん かん 剤	29	4.4	4,820,853	2.5
	抗 パ ー キンソン 剤	10	1.5	595,260	0.3
	催眠鎮静剤・抗不安剤	40	6.1	4,231,450	2.2
	中枢神経系用薬（その他）	35	5.3	9,603,816	5.1
循 環 器 官 用 薬		57	8.7	1,453,736	0.8
消 化 器 官 用 薬		55	8.4	9,252,511	4.9
そ の 他 の 薬 剤		281	42.9	17,060,689	9.0
計		655	100.0	190,168,497	100.0

(9) 医療教育

ア 臨床研修医受入状況

管理型病院名	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
足 柄 上 病 院									1				
厚 木 市 立 病 院								1					
国 際 親 善 総 合 病 院					1	1							
横 浜 労 災 病 院					1	1	1	1	1	1	1		

令和元年度は、臨床研修協力型病院として上記のとおり臨床研修医を受け入れた。（単位：人）

イ 研修受入

対 象	人 数	実 施 日
横浜市立大学医学部学生	62人	火曜日（見学実習） 概ね3週に1回

(10) 栄養管理業務

栄養管理科では、安全、安心な食事提供を日常の業務目標としている。令和元年度は後半2月から生じた新型コロナウイルス感染症対策のため、一層の体調管理および感染症対策の業務が加わったが、科員一丸となって業務を遂行してきた。

給食提供業務においては、入院治療の療養環境の一つとして美味しく、癒やしとなる食事作りを目指している。令和元年度は特に、精神科特有の閉鎖病棟や隔離状況の患者様の楽しみとなるような献立内容の見直しをしてきた。

臨床業務においては、全ての入院患者様の身体合併症予防のために患者様の個別性を踏まえた栄養管理計画を行い患

者様個々人にとって適正かつ有効な栄養管理を目指し実施してきている。なお、患者様の地域移行、退院促進に向けて健康管理、食生活の自立に結びつく患者教育・支援を実施している。

NST・栄養管理検討部会においては、定例の会議開催、病棟訪問、嚥下ラウンドを実施した。実施項目として低栄養改善、生活習慣病予防のほか誤嚥・窒息予防などを中心に取り組んだ。病棟カンファレンスでは、栄養管理上の問題点、課題などの解決に向けた提案をしてきた。実施件数は項目「イ」に表記した。

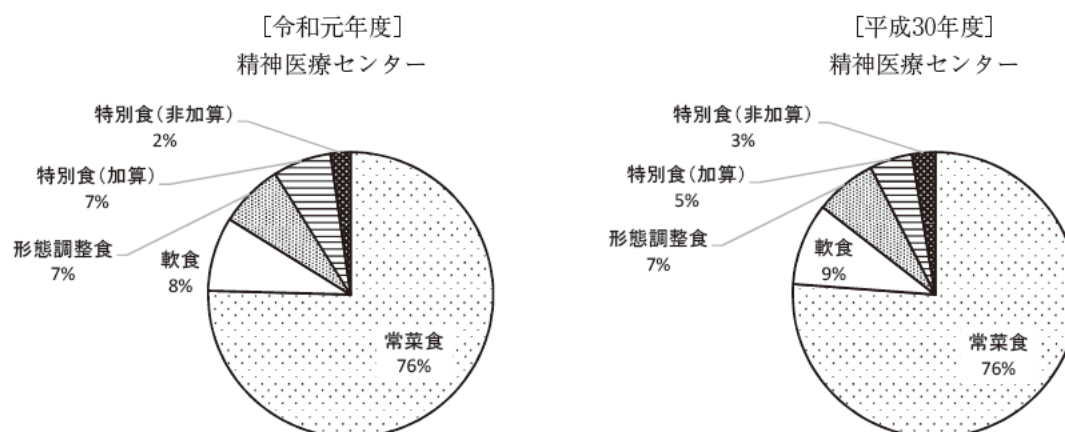
給食管理における異物混入、誤配膳などのリスクマネジメントとして科員の連携、協力を強化するために定例の科内会議のほか、科内ミーティングの充実を図った。

患者食糧費の適正活用のための業務改善は、前年度に継続して取り組みを実施した。入退院の患者数の変動に合わせて発注変更や在庫管理など無駄のない食材管理を実施することができている。このような食材管理への取り組みにより食事の質を落とさずに経営改善に努めることができた。

ア 給食実施状況

令和元年度は、流動食、ペースト食、ゼリー訓練食の食種活用が増加している。嚥下ラウンドの定着および各病棟において嚥下状況に対応した食種選択ができてきていると推察する。実施食数の変化はほとんどないが、特別食の割合が120%と増加している。特に特別食加算は137%と大きく増加した。管理栄養士による病棟内の栄養管理、病棟カンファレンスによる患者様個々人の栄養管理の検討をした結果、適切な食種が活用されるようになってきていると考える。

区 分				年 度	令和元年度	平成30年度	対前年度比（％）
一 般 食	常 軟 食	菜 食		225,677	226,329	99.7	
		軟 菜 食	17,562	19,853	88.5		
		分 粥 食	7,651	7,888	97.0		
		小 計	25,213	27,741	90.9		
	形 態 調 整 食	流 動 食	437	26	1,680.8		
		ソ フ ト 食	2,928	2,779	105.4		
		き ざ み と ろ み 食	17,194	17,658	97.4		
		ミ キ サ ー 食	4	5	80.0		
		ペ ー ス ト 食	876	252	347.6		
		ゼ リ ー 訓 練 食	246	52	473.1		
		小 計	21,685	20,772	104.4		
		計	272,575	274,842	99.2		
特 別 食	加 算	腎 炎 食	1,519	1,101	138.0		
		心 臓 病 食	656	146	449.3		
		肝 臓 病 食	2,150	472	455.5		
		糖 尿 病 食	10,588	8,574	123.5		
		膵 臓 病 食	777	402	193.3		
		脂 質 代 謝 異 常 症 食	3,804	3,368	112.9		
		肥 満 食	294	358	82.1		
		潰 瘍 食	6	0	—		
	小 計	19,794	14,421	137.3			
	非 加 算	エネルギーコントロール食	2,322	2,294	101.2		
		塩 分 コ ン ト ロ ー ル 食	512	814	62.9		
		塩分エネルギーコントロール食	0	48	—		
		脂 質 コ ン ト ロ ー ル 食	20	210	9.5		
		濃 厚 流 動 食	1,437	2,174	66.1		
		検 査 食	521	487	107.0		
		コ メ ン ト 指 示 食	1,987	1,756	113.2		
		小 計	6,799	7,783	87.4		
		計	26,593	22,204	119.8		
		合 計		299,168	297,046	100.7	
		デ イ ・ ケ ア		2,434	2,764	88.1	
検 食 ・ 保 存 食		2,196	2,190	100.3			
総 合 計		303,798	302,000	100.6			



イ 栄養管理・NST活動

患者様の入退院の変動に応じて、スクリーニング件数が増加した。病棟カンファレンスの内容がより深い栄養管理検討の場になってきており、重点的な患者様に絞って抽出をしているため、見かけ上のカンファレンス症例件数は減っているが、病棟によっては抽出患者数が増加している。

多職種によるチーム医療が形づくられてきており、院内スタッフが食事摂取量や体重変化、飲み込みの状況に着目し、職種間において情報共有をする場面が増えている。低栄養状態のみならず、過剰栄養、摂食・嚥下に問題がある入院患者様に対する食種変更や補助食品の活用が効果的に実施されるようになってきている。NST・栄養管理検討部会においては、NST通信の年3回の発行、勉強会の年3回実施など院内全体に向けた啓蒙活動を実施した。

区 分	年 度	令和元年度	平成30年度	対前年度比（％）
スクリーニング件数（新規入院患者）		1,299	1,142	113.7
カンファレンス症例件数		456	515	88.5

ウ 栄養食事指導

令和元年度の個人指導は、外来患者様については、診察日にあわせ食生活改善のアドバイスを実施した。入院患者様については、病棟において栄養指導を実施した。全体の栄養食事指導件数が前年度対比108.3%と昨年度に引き続き増加した。入院患者様については147%と大きく増加している。外来患者様の件数が減少した理由は、新型コロナウイルス感染症対策のため2月、3月の外来実施を縮小した影響である。

集団指導は、ストレス外来治療プログラム「リワーク」のほか、依存症病棟における「せりがや講座」、食生活自立支援のための「作業療法プログラム」、デイケア通院患者対象の「パワーアップセミナー」などを実施した。

年度	区分	入 院			外 来			合 計		
		個人指導		集団指導 延人数	個人指導		集団指導 延人数	個人指導		集団指導 延人数
		件数	件数		件数	件数		件数	件数	
令和元年度		129	19	162	327	4	27	456	23	189
平成30年度		88	14	128	333	3	14	421	17	142
対前年度比（％）		146.6	135.7	126.6	98.2	133.3	192.9	108.3	135.3	133.1

エ その他

実習生の受け入れ指導

神奈川県立保健福祉大学より管理栄養士実習受託、3週間2名の実習を実施した。

関東学院大学より管理栄養士実習受託、3週間4名の実習を実施した。

(11) 医療安全推進業務

1 令和元年（2019 年）度活動目標

【医療安全対策】

ヒヤリ・ハット事例及びアクシデント報告全体における医師の報告割合について、拡大を目指す。例年の報告 件数 10%増加を目指す。また、医師の報告割合 2 %を目標とする。

【院内感染対策】

- 1) 感染症を「持ち込まない」「広めない」「持ち出さない」ために標準予防策・経路別感染対策を徹底する
- 2) 清潔な環境を提供できる
- 3) 感染症の知識や感染防止策についての啓蒙活動を行う

2 医療安全対策総括

ヒヤリ・ハット事例報告の件数は、前年度より 7 %減少し、レベル0.1の割合は、82%と前年度と変わらなかった。報告書の提出は、医師・理学療法士・栄養士らが前年比140～230%、検査技師・放射線技師からも提出があった。看護師以外の職種による報告の全体に占める割合は 6 %から9.4%と増加した。ヒヤリ・ハット事例を共有することが重要であると伝え活動したこと、各部門が安全に対する意識が向上した成果と考える。引き続き報告を促し、各種会議で情報共有し啓蒙活動する。

チューブ・ドレーン管理は 8 件から34件と増加した。その 8 割が胃チューブの自己抜去でありミトン着用・身体拘束下での発生であり、さらに同一の患者から繰り返し報告もあった。その都度、管理方法を再検討し対応した。点滴・注射に関する報告は前年比367%にあり、それらは 6 Rを行えば防げる内容がほとんどを占めた。指示内容の確認方法や Wチェックの方法を再考し再発防止に努める。

職員が負傷する暴力が継続して発生（令和元年 47件）し、技能員や医師が負傷しているケースもある。看護局・医療安全推進室が中心となり、医師、精神保健福祉士、事務職員等の職種横断的なワーキングを設置し、対応について協議し、マニュアルを作成した。働く職員に安全な職場環境を築くことを目指し今後は、マニュアルの活用を職員に周知する。

- | | |
|--------------|--------|
| 1) 月別報告件数 | 表 1 参照 |
| 2) 報告分類レベル内訳 | 表 2 参照 |
| 3) 発生時間帯内訳 | 表 3 参照 |
| 4) 報告者職種内訳 | 表 4 参照 |

3 院内感染対策

感染症の発生報告後も5人以下の発生にとどまった。持ち込み防止策として緊急入院時の感染対策、外泊からの帰院時、面会者の健康確認、職員の健康管理を行い拡大防止策にとり組んだ。令和2年（2020年）2月には新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、平日の朝会後に管理者による会議を開催し感染対策を検討した。防護用具の管理・手指消毒剤の調達、感染症患者の受け入れのシミュレーションを行い流行に備えた。

1) 感染症発生集計 表5 参照

表1 月別報告件数（平成31年4月～令和2年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
レベル0	5	14	10	16	19	13	9	12	18	19	11	19	165	190
レベル1	59	59	48	56	62	56	73	44	60	47	67	57	688	720
レベル2	14	5	8	15	15	15	17	18	15	15	7	13	157	174
レベル3a	2	0	4	4	2	0	3	1	1	1	3	1	22	26
レベル3b	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	6	2
レベル4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レベル5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	80	78	71	91	98	85	103	75	94	83	89	91	1,038	
前 年 度	96	106	87	106	94	80	84	98	83	101	85	92	1,112	
レベル0・1割合	80.0%	93.6%	81.7%	79.1%	82.7%	81.2%	79.6%	74.7%	83.0%	79.5%	87.6%	83.5%	82.2%	

表2 分類レベル別内訳（平成31年4月～令和2年3月）

レベル	薬剤関連			指示・情報伝達	転倒・転落	検査	チューブ管理・ドレーン・治療処置	そ の 他										合 計	
	内服薬	注射薬	外用薬					誤嚥・窒息	配膳・異物混入	盗食・異食	自殺企図・自傷	(对患者・対物) 暴行	暴行(対職員)	離院・無断外出	持ち込み	受傷	その他		
レベル0	92	3	1	7	1	5	0	3	0	9	2	1	0	1	0	2	0	38	165
レベル1	211	16	7	2	142	25	29	2	3	24	15	28	25	28	13	16	12	90	688
レベル2	20	3	0	1	37	1	5	2	1	0	3	21	14	16	7	5	8	13	157
レベル3a	0	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	5	0	2	4	0	3	0	22
レベル3b	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	6
レベル4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レベル5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	323	22	10	10	189	31	34	7	4	33	20	56	39	47	24	23	24	142	1,038
前 年 度	360	7	2	4	215	21	10	10	10	30	27	97	38	51	20	39	26	145	1,112

表3 発生時間帯内訳（平成29年度～令和元年度）

	平成29年 (2017) 年度	平成30年 (2018) 年度	令和元年 (2019) 年度
0 - 1 時	45	43	40
2 - 3 時	26	33	30
4 - 5 時	22	23	25
6 - 7 時	98	101	101
8 - 9 時	90	133	101
10 - 11 時	137	139	138
12 - 13 時	117	112	112
14 - 15 時	109	115	106
16 - 17 時	90	115	93
18 - 19 時	135	133	132
20 - 21 時	137	105	109
22 - 23 時	35	37	25
時間帯不明	32	23	26
合 計	1,073	1,112	1,038

表4 報告者職種内訳（平成29年度～令和元年度）

	平成 29 年 (2017) 年度	平成 30 年 (2018) 年度	令和元年 (2019) 年度	構成比
医 師	9	10	23	2.2%
看 護 師	1,013	1,045	939	90.6%
薬 剤 師	16	29	28	2.7%
臨床検査技師	0	0	1	0.1%
放射線技師	0	0	1	0.1%
作業療法士	12	11	20	1.9%
栄養士	20	12	17	1.6%
事務職	0	1	1	0.1%
そ の 他	2	4	6	0.6%
合 計	1,072	1,112	1,036	100.0%

表5 感染症発生集計

迅速検査実施報告書・職員・家族感染症発生報告書（平成30年度・令和年度）集計

年	感染症・主訴						発症者				報 告 部 署														合 計	
	感染症	インフルエンザ	流行性胃腸炎	発熱	呼吸器症状	下痢・嘔吐	その他	患者	職員本人	職員の家族	その他	医療局	2 A	2 B	3 A	3 B	4 A	4 B	5 A	5 B	F	外来	* 1 F	* 2 F		委託
平成30年 (2018年度)		50		50				52	23	25		1	9	15	4	2	8	16	18	12	8	2	5			100
令和元年 (2019年度)	1	48		97		3		103	24	22		2	6	21	31	8	15	4	22	9	9	6	14	1	1	149

* 1 F：地域連携科・栄養管理科・薬剤科・放射線科・検査科・心理科・作業科・デイケア科・訪問看護科・相談科・医事課

* 2 F：看護局・教育科・経営企画課・総務課

(12) 保育業務

令和元年度は、精神医療センター及びこども医療センターに勤務する看護師、医師の幼児を対象とするとともに、保育時間も6時30分から22時までとしている。また、毎週土曜日と週2日（火・木）の夜間保育、月1回日曜保育（第3を基本）も実施している。

ア 保育の状況 令和元年度（令和2年3月1日時点）

年齢	男	女	計	保 護 者 の 所 属			
6 歳	3	1	4	精神医療センター 1	こども医療センター 3		
5 歳	2	4	6	精神医療センター 1	こども医療センター 5		
4 歳	3	6	9	精神医療センター 1	こども医療センター 8		
3 歳	5	4	9	精神医療センター 2	こども医療センター 7	地域 0	
2 歳	2	3	5	精神医療センター 1	こども医療センター 4	地域 0	
1 歳	6	1	7	精神医療センター 4	こども医療センター 3	地域 0	
計	21	19	40	精神医療センター10	こども医療センター 30	地域 0	

イ 主な行事

月	内 容	
4	進級式、クラス懇談会	誕生会
5	芋苗植え、こどもの日製作、母の日製作、保育参観	〃
6	前期健康診断、父の日製作、歯みがき指導	〃
7	プール開き（プールは～8/31まで実施）、終園式、七夕製作	〃
9	始園式、秋祭り、お月見製作	〃
10	運動会、秋の遠足	〃
11	芋掘り	〃
12	クリスマスお楽しみ会、終園式、なかよし発表会、後期健康診断	〃
1	始園式、個人面談	〃
2	節分、おひなさま製作	〃
3	お別れ遠足、卒園式、終園式	〃

令和元年度 **業 務 年 報**

令和2年11月発行

神奈川県立精神医療センター

横浜市港南区芹が谷2-5-1

TEL 045-822-0241

印刷所 文明堂印刷株式会社 横浜営業所

横浜市南区共進町3-54-1 佐藤ビル 1F-B

TEL 045-731-1441
